

# フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービスSESSADの成立と評価

－わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与－

研究課題番号：17402049

## 平成17年度～平成18年度科学研究費補助金 (基盤研究(B)) 研究成果報告書

平成19年3月

研究代表者：棟方哲弥

独立行政法人国立特殊教育総合研究所総括研究員



## フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービス S E S S A D の成立と評価

- わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与 -

«Fonctionnement et évaluation des SESSAD en France, services d'éducation spécialisée et de soins à domicile avec soutien apporté par des établissements spécialisés à des écoles ordinaires

– Apports de ce système au dispositif d'éducation avec soutien spécial pour enfants handicapés dans les écoles primaires et les collèges japonais»

### はしがき

我々は、科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）海外調査「フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービス S E S S A D の成立と評価 - わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与 -」（課題番号：17402049）を進めるにあたり、UNAPEI（Union Nationale des Associations de Parents et Amis de Personnes Handicapées Mentales）の全面的な協力を得て訪問調査・資料収集を行うことができた。

わが国において、通常の小・中学校に在籍する L D，A D H D，H F A などの特別なニーズを持つ子どもへの対応を含めた教育改革が進んでいる中、フランスの S.E.S.S.A.D.（Services d'éducation Spécialisée et de Soins à Somicile）と呼ばれるサービスは、特別学校が、それらの支援のための地域のセンター的な役割を果たすことなどが期待されている。この分野において、既に 900 を超える S.E.S.S.A.D. など、フランスの経験に共に学ぶことができるものと期待している。

**Préface:** Nous menons actuellement un projet qui bénéficie d'une subvention de recherche du MEXT sur le thème suivant : «Fonctionnement et évaluation des SESSAD en France, services d'éducation spécialisée et de soins à domicile avec soutien apporté par des établissements spécialisés à des écoles ordinaires – Apports de ce système au dispositif d'éducation avec soutien spécial pour enfants handicapés dans les écoles primaires et les collèges japonais».

L'équipe de recherche s'est déjà rendue à plusieurs reprises en France et a pu, grâce à l'aide de l'UNAPEI, mener des enquêtes sur l'éducation spécialisée en France.

Aujourd'hui, le Japon a entrepris une réforme de l'éducation dont l'un des volets est de prendre en compte les besoins spéciaux d'enfants dans les écoles primaires et des collèges, difficultés d'apprentissage, TDAH ou autisme. Dans ce cadre, les écoles d'éducation spécialisée seront appelées à jouer un rôle de centre local pour soutenir ces efforts. C'est pourquoi nous espérons vivement que le Japon pourra beaucoup

apprendre de l'expérience française.

Tetsuya MUNEKATA  
le département de politique et de planification, NISE

### 研究組織\*

研究代表者：棟方哲弥（独立行政法人国立特殊教育総合研究所企画部総括研究員）

研究分担者：金子 健（独立行政法人国立特殊教育総合研究所企画部主任研究官）

研究分担者：徳永 豊（独立行政法人国立特殊教育総合研究所企画部総括研究員）

研究分担者：中村 均（独立行政法人国立特殊教育総合研究所上席総括研究員）

\* 成果報告書概要(様式 C-19 及び様式 C-20)に記載した組織である。

### 交付決定額（配分額）

（金額単位：円）

|        | 直接経費      | 間接経費 | 合計        |
|--------|-----------|------|-----------|
| 平成17年度 | 4,300,000 | 0    | 4,300,000 |
| 平成18年度 | 2,600,000 | 0    | 2,600,000 |
| 総 計    | 6,900,000 | 0    | 6,900,000 |

### 研究経緯と成果

（平成 17 年度）

初年度として、SESSAD 等の文献調査を行うとともに、教育省特殊教育研修研究センター（C.N.E.F.E.I.）、全国障害者親の会（U.N.A.P.E.I.）、治療教育院、地域支援機関等への実地調査を行った。

文献による日本への U N A P E I の紹介は 1991 年に、当時の資料を翻訳したと思われる文教大学星野常夫らの報告（「フランス全国親の会「U N A P E I」フランス全国親の会の活動（訳）」、フランス障害児教育の研究 5、フランス障害児教育研究会編、1991）があり、そこでは、地方の親の会や施設へ訪問などを踏まえて、やや informal な把握を試みていることが理解された。我々の調査当時 UNAPEI は、国際育成会連盟（Inclusion International）のフランス代表の機関であり、日本のカウンターパートは、その意味で全国手をつなぐ育成会であった。しかしながら、フランスでは地方ごとに親の会の団体が、ほぼ全ての障害者施設や、いわゆる養護学校（IME 等）等の運営を行って（任されて）おり、これをフランス全土でとりまとめるのが U N A P E I であった。一方、日本では、社団法人日本知的障害福祉連盟が社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会、財団法人日本知的障害者福祉協会（旧愛護協会）、全日本特別支援教育研究連盟、日本発達障害学会の 5 つの団体を束ねる活動をしている。したがって、これらの全体の機能を並べ

比べるとしても、実際のUNAPEIの印象とは大きな違いがあるように思われた。すなわち日本では、日本発達障害学会を除いた4協会が最小構成に至るまで、それぞれ縦割りの組織である一方で、フランスでは、地方にあるそれぞれの施設や団体が、例えば日本の4協会を融合させた“親の団体”として存在するのである。このように、UNAPEIは、その構成要素が、それぞれに独立可能な団体であり施設となっている。

それ以上に相違点と感じられたことは、フランスでは協会が施設の運営を担っているため、地方の親の会協会はその地域の施設の設置や、定員、人事、さらに“実質的には”入所、入学認定に係る権限を有しているようであった。これを考慮すると、日本における社団法人日本知的障害福祉連盟にある4協会の連合に加えて、施設や学校の設置者である都道府県、市区町村の役割まで広く包含する力を持った団体の連盟であることが示唆された。実地調査をする過程で、日本とフランスにおける知的障害者へのサービスにおける大きな違いが見いだされてきた。

また、日本との比較を行う際にも注意が必要であった。すなわち、フランスでは、通常学校から独立した“場”において行われる特別な教育を、厚生省系、国民教育省系を問わず、いわゆる特殊教育(*éducation spéciale*)と呼んでいる。日本でいう特殊教育は、フランスで言えば、この*éducation spéciale*に加えて、統合教育(*intégration scolaire*あるいは*éducation intégrative*)の名の下に行われる通常学校を“場”として提供される特別なサービスの内容である*éducation spécialisée*を包含した内容といえる。

フランスの障害者基本法(1975年6月30日の法律第75-534号)では、障害のある子どもの教育に要する費用は、国民教育省が負担することとなり、厚生省系の特殊教育の“場”において、国民教育省の教師が雇われて教育を行う、あるいは、厚生省系の特殊教育施設が通常学校内に特殊学級(統合学級:*CLIS classes d'intégration scolaire*)を運営するという実態がある。さらに、通常学級に在籍する児童生徒の特別なニーズに対する支援を厚生省系の施設等が行うサービスがSESSAD(*services d'éducation spécialisée et de soin à domicile*)であった。

SESSADの機能が明らかになるとともに、実地調査において、2006年1月から施行となった「全ての障害のある子どもが、居住地に最も近い学校に登録されるべきこと」を規定した法律である「障害者の機会均等と社会への平等参加のための2005年2月法(*Loi n° 2005-102 du 11 février 2005*)」を支えるシステムとしてのSESSADとAVSについて、さらに調査を進める必要が明らかになった。

(平成18年度)

本研究課題は2カ年計画のため、本最終年度には、初年度の課題となっていた新たな法律の施行の下におけるSESSADの機能について実地調査を行った。具体的には、“*Delegue Interministeriel pour les Personnes Handicapées*”に出席するとともに、SESSAD La Durantiere, IMP and SESSAD Chanzy, Ateliers de la Cholier (CAT)を訪問し聞き取り

調査を行った。また、CREAI(障害研究センター)並びに HALDE(高等障害者権利保障機関)において同法の施行によるフランスの現状について情報の収集を行った。その結果、居住地に最も近い学校に登録されるべきこと」を規定した障害者の機会均等と社会への平等参加のための 2005 年 2 月法 (Loi n° 2005-102 du 11 février 2005) 施行後の実態、学校生活介助者 (A.V.S. : Les auxiliaires de vie scolaire) の導入による専門性の低下など、新たな課題が明らかになった。

新しい障害者基本法 (2005 年 2 月法) が障害による市民の権利行使への差別禁止とそのための補償措置を講ずるという大きな流れの中で、教育分野の原則を「全ての障害児は居住地に最も近い通常学校に就学 (inscription)」と謳った。フランスは、このことで、インクルーシブな教育制度を満たしたことを宣言したように見えた。その一方で、フランスの障害児教育の実態は、2006 年 1 月の同法施行の前後で、通常学校への障害児の雪崩現象的な移動など、大きな変化は起こっておらず、その背景を探ることとした。

障害者基本法 (2005 年 2 月法) は、シラク (Jacques CHIRAC) 前大統領の 5 年の任期の三つの公約の 1 つとして挙げられた「障害者の社会への参画 (insertion)」を具現化するものであり、また 1975 年以來の障害者基本法の改正となる「障害者の機会、参加の権利、市民権の平等についての法律」(LOI n° 2005-102 du 11 février 2005 pour l'égalité des droits et des chances, la participation et la citoyenneté des personnes handicapées), 以下 2005 年 2 月法) が成立した。本法は障害者が国の連帯の権利を享受して市民としての権利へのアクセスを補償するという障害者差別禁止とそのための補償を規定したものであり、「差別禁止」を担保するために、これに先だつ 1 年前となる 2004 年には、障害や男女差別等に対応する高等調停機関 (HALDE: La Haute Autorité de Lutte contre les Discriminations et pour l'Égalité) を設置している。

以下は、同法第 19 条の教育へのアクセスについて述べている部分であり、以下の二つめは、フランスの解説文献等でも良く紹介されている主な部分であった。)

<前略> l'Etat met en place les moyens financiers et humains nécessaires à la scolarisation en milieu ordinaire des enfants, adolescents ou adultes handicapés.

国は、障害のある子どもが通常場で教育されるために必要な措置を講ずる。

Tout enfant, tout adolescent présentant un handicap ou un trouble invalidant de la santé est inscrit dans l'école ou dans l'un des établissements mentionnés à l'article L. 351-1, le plus proche de son domicile, qui constitue son établissement de référence.

全ての障害のある子どもは、居住地に最も近い学校に就学 (学籍を作る: INSCRIPTION) すること

また、以下は、その例外、すなわち、子どもの個別の学校教育計画の枠組みにおいて、どうしても適応させた教育が必要な場合には、保護者の同意の下に別の学校に措置 (戻ってくることも念頭に置いて) される可能性が書かれるが、その場合の基準などは具体的に書か

れていない。フランスでは、校長や教員が納得しなければ（できないと言えば、できない）物事がすまないとされており、今後の調査の課題と思われた。

Dans le cadre de son projet personnalisé, si ses besoins nécessitent qu'il reçoive sa formation au sein de dispositifs adaptés, il peut être inscrit dans une autre école ou un autre établissement mentionné à l'article L. 351-1 par l'autorité administrative compétente, sur proposition de son établissement de référence et avec l'accord de ses parents ou de son représentant légal. Cette inscription n'exclut pas son retour à l'établissement de référence.

既に述べたように inscription = enrollment（就学）は、実際には、就学の手続きが開始されることを意味するだけで、必ずしも、その学校に継続して通学が確定することではない。しかしながら、学校は、通常学級において支援員(AVS: Auxiliaires de Vie Scolaire)の活用を含めて、出来る限り子どものニーズに対応する方向で検討される。もし、ニーズを満たせない場合には、県の障害児・者センターMDPH(Maison départementale des personnes handicapées)の委員会が個別の学校教育計画(PPS)を作成して、学校内で言えば、特殊学級にあたる(CLIS, UPI), さらに学校以外の特殊教育機関(日本で言えば養護学校)で教育されることになる。なお、個別の学校教育計画(PPS)への不服申し立ては MDPH へ、さらに HALDE に持ち込まれる。

我々の聞き取り調査によれば、フランス国立特殊教育研究研修センター(CNEFEI, 現在は同高等研究所)の所長はじめ、現状に大きな変化はないと分析しているようであり、HALDE への訴えは、法律が施行された最初の就学時期において HALDE にはフランス全土で数件という情報が得られた。

フランスは、原則インクルージョンに踏み込むために、主に通常学級への支援員(AVS: 教育省予算措置)の措置や養成や、特殊学級等へ、日本で言えば自立活動を支援する SESSAD (日本で言えば特別支援学校である IME のセンター的機能であり、視覚 SAAAIS、聴覚 SSEFIS、知的障害 SESSAD など柔軟なサービスが提供されている。)の拡張、さらに、社会的な啓蒙(テレビCM, UNAPEI のDVDによる障害者の社会参加の教材など)の実施などが確認された。

わが国において、通常の小・中学校に在籍する LD(学習障害), ADHD(注意欠陥多動性障害), 高機能自閉症やアスペルガー症候群などの特別なニーズを持つ子どもへの対応を含めた教育改革が進んでいる中、フランスの S.E.S.S.A.D. サービスを含めた多様な支援のように、特別学校が地域のセンター的な役割を果たすことなどが期待された。

## 研究発表

### 学会誌等

棟方哲弥, S.E.S.S.A.D. (Services d'éducation spécialisée et de soin à domicile) とフランス特殊教育の最新の話題, 世界の特殊教育 20, pp.101-104, 2006.

#### 口頭発表

金子 健，フランス：障害のある子どもの認定と学校・支援の決定，日本特殊教育学会自主シンポジウム 31，日本特殊教育学会大会論文集，p.82，2006.

#### 公開協議会

公開協議：科学研究費補助金基盤研究（B）海外調査「フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービス S E S S A D の成立と評価 - わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与 - 」，於：キャンパスイノベーションセンター 404 号室，東京都港区芝浦 3 - 3 - 6，平成 18 年 3 月 6 日.

#### 出版物

棟方哲弥・金子 健，フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービス S E S S A D の成立と評価 - わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与 - （平成 17 年度～平成 18 年度）研究報告書，独立行政法人国立特別支援教育総合研究所，2007.

# 論文編

## 掲載論文等

- 1 . 棟方哲弥, S.E.S.S.A.D. ( Services d'éducation spécialisée et de soin à domicile ) とフランス特殊教育の最新の話題, 世界の特殊教育 20, pp.101-104, 2006.
- 2 . 金子 健, フランス：障害のある子どもの認定と学校・支援の決定, 日本特殊教育学会自主シンポジウム 31, 日本特殊教育学会大会論文集, p.82, 2006.
- 3 . フランスにおける知的障害者の支援の最新動向 - フランス知的障害者の親の会全国連盟 (UNAPEI) - , 公開協議資料：科学研究費補助金基盤研究 ( B ) 海外調査「フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービス S E S S A D の成立と評価 - わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与 - 」, 於:キャンパスイノベーションセンター404号室, 東京都港区芝浦3-3-6, 平成18年3月6日.



## 第六部 自由投稿

# S.E.S.S.A.D. (Services d'éducation spécialisée et de soin à domicile) とフランス特殊教育の最新の話題

棟 方 哲 弥  
(企画部)

## 1. はじめに

本稿では海外事情報告として、現在進行中である基盤研究(B)海外調査「フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービス S E S S A D の成立と評価ーわが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与ー」(課題番号: 17402049)による訪問調査・資料収集により得られた情報をもとにして、1. S.E.S.S.A.D. と呼ばれるサービス、2. 知的障害者の親の会の全国組織である UNAPEI がフランスの全小中学校 (CP) に対して行った障害理解のための全国キャンペーン、3. 2006年1月から施行となった「全ての障害のある子どもが、居住地に最も近い学校に登録されるべきこと」を規定した障害者の機会均等と社会への平等参加のための2005年2月法 (Loi n° 2005-102 du 11 février 2005) について報告する。

## 2. 海外調査の目的について

フランスでは、教育省管轄の小中学校における障害のある子どもへの特別な支援サービスとして、厚生省系特殊教育施設、あるいは親の会の団体が大きな役割を演ずること (棟方, 2002; 2004 など) が見いだされている。本研究は、これらのフランス特殊教育のユニークなシステムについて、サービスの成立過程とその評価を含めた実態を明らかにすることで、わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与することを目指している。

## 3. S.E.S.S.A.D. について

“セサド” と呼ばれ、直訳するならば「家庭 (domicile) における特殊教育・ケアサービス」となるが、この名称は、フランス国内においてさえ誤解されるおそれがあるとされる (INTÉGRATION SCOLAIRE & PARTENARIAT, 2005)。ここで “domicile” とは、子どもが生活・活動する場という意味であり、SESSAD は、地域の学校などにおいて障害のある児童生徒を支援するサービスの一つである。

SESSAD のサービスは、障害別に、あるいは対象とする子どもの年齢によって、いくつかの異なる名称が存在する。

視覚障害分野の SESSAD は、SAA AIS あるいは S3 AIS であり、聴覚障害分野では SSEFIS、0 歳から 3 歳までの感覚障害を対象としたものは SAFEP、知的障害や重複障害、運動障害を対象としているものはそのまま SESSAD と呼ばれる。

SESSAD には、多職種の専門家が必要と規定されており、その構成メンバーは、具体的には、医師、特殊教育指導員 (éducateurs spécialisés)、精神運動訓練士 (psychomotricien)、言語聴覚士 (orthophoniste) などである。この中の “psychomotricien” と “éducateurs” については日本に同等の資格が存在しない。前者は、當島 (2003) により、ドイツにおける同種の専門分野についての解説が行われている。日本では、おそらく OT、PT が担うべき役割であるが、医学というよりは教育・心理学の領域にあり、その意味ではムーブメントや臨床動作法などが、これに近いものであろう。後者は、保育士養成施設等を経て介護福祉士を取得した場合に近い資格と捉えることができるのではないかと考えている。しかしながら、これらの関連については、今後、資格修得要件や養成を行う機関など、実際の業務の緻密な調査と比較分析が必要と思われる。

さて、これらの専門家は、厚生省系の治療教育施設である I.M.E. (Institut Medico-Educatif) や C.M.P.P. (Consultation médico psycho pédagogique) などに置かれるものと同じとなっており、その意味では、これらの施設が、既に有するシステムや、スタッフを活用して、このサービス提供の主体となることは合理的な理由によると考えられる。

その一方で S.E.S.S.A.D. は、もう一つの形態が規定されている。それは、上述したように、I.M.E. あるいは C.M.P.P. などが、既に有する専門的なリソースを活用してセンター的な活動を行うタイプではなく、新たに単独で設立された S.E.S.S.A.D. である。今回、このタイプの S.E.S.S.A.D. を訪問した際に、筆者が「既に専門的なリソースを有する療育施設である I.M.E. に併設させたほうが、効率的で、合理的ではないか」との質問をしたところ、S.E.S.S.A.D. が I.M.E. 等に併設されることは、規定された事実であるにも関わらず、

所長からは、S.E.S.S.A.D.のサービスは通常学校への統合のために存在するのであり、そのサービスは、I.M.E.などの分離型のサービスとは、全く無関係であるとの答えが返された。このことはフランスにおける「I.M.E. =分離型教育」が持つ印象の根深さを示したものと興味深い事実と感じられた。これらについても、今後、質問紙法などによって、全国的な傾向を調べる必要があると考えている。

これとは別に学校生活介助者（A.V.S. : LES AUXILIAIRES DE VIE SCOLAIRE）による個別の幼・小・中学校への統合サービスを実施する協会を訪問した。この協会の代表者によれば、統合の方法は、子どもの障害の種類や程度に依存するが、例えば自分に健常者の兄弟のあるダウン症の子どもなどについては、通常学級に個人として統合されることが望ましいこと、さらに、この手だてとしてA.V.S.によるサービスが上げられるとのことであった。その一方で、このシステムの問題点としてA.V.S.の資質の低さを第一に指摘していた。これについては、A.V.S.利用者の半数以上が保育学校における統合であるという報告（INTÉGRATION SCOLAIRE & PARTENARIAT, 2005）や、安易で安価な統合という批判（Pierre Baligand, 2005）もあることなどから、これらについても、具体的な評価指標を用いた調査による分析などが必要であると考えられる。

#### 4. UNAPEIの障害理解全国キャンペーン

2005年5月、フランスの小学校向けの新聞であるle Petit Quotidienの2005年5月10日号において知的障害者理解キャンペーンが行われ、フランスのLe Figaroをはじめとする少なくとも20紙に紹介されるなど大きな反響を呼んだ（UNAPEI, 2005）。これを企画実施したのがUNAPEI（Union Nationale des Associations de Parents et Amis de Personnes Handicapées Mentales）である。

カラー印刷全12ページの小学生（6歳-7歳）向けの新聞である。新聞の内容は、染色体異常などの医学的解説などについても平易にイラストを用いて工夫して作られていた。このキャンペーンでは、le Petit Quotidienの80,000人（あるいは学級）の読者に加えて、フランス全土の6歳-7歳児の児童を担任する40,700人の小学校教員に、それぞれ26部ずつ配布して、児童に家に持参させる試みであった。結果として1,138,200部が配布されたとされる（UNAPEI, 2005）。

#### 5. UNAPEIについて

フランスの障害者の教育の実態を把握するためには、歴史的な背景を含めて、障害のある子どもの親の会（協会）

の活動が重要と考えられることから、その全国組織について紹介する。紹介するのは、上記のキャンペーンを行った最大の団体であるUNAPEIである。

日本におけるUNAPEIの紹介は1991年当時の資料を翻訳したと思われる文星野常夫ら（1991）の報告“フランス全国親の会「UNAPEI」フランス全国親の会の活動（訳）”があるが、すでに15年以上を経ていることや、今回行われた地方の障害のある子どもの親の会の協会や施設へ訪問などを踏まえて、大つかみに、その把握を試みる。

UNAPEIは、国際育成会連盟（Inclusion International）のフランス代表の機関であり、日本のカウンターパートは、その意味で全国手をつなぐ育成会となる<sup>\*1</sup>。しかしながら、フランスでは、地方ごとに、親の会の団体が、ほぼ全ての障害者施設の運営を行って（任されて）おり、知的障害の場合、これをフランス全土でとりまとめるのがUNAPEIである。

一方、日本では、社団法人日本知的障害福祉連盟が、社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会、財団法人日本知的障害者福祉協会（旧愛護協会）、全日本特別支援教育研究連盟、日本発達障害学会の5つの団体をまとめる活動をしている（社団法人日本知的障害福祉連盟, 2005）が、その実際は、UNAPEIの印象とは大きな違いがあるように思われる。

すなわち、日本では、日本発達障害学会を除いた4協会が、最小構成に至るまで、それぞれ縦割りの組織である一方で、フランスでは、地方にあるそれぞれの施設や団体が、例えば日本の4協会を融合させた“団体”として存在する。このように、UNAPEIは、その構成要素が、それぞれに独立可能な団体であり施設となっている。他の障害種別も、同様に親の会の協会がサービスの運営にあたっており、日本とフランスにおける障害者へのサービス体系には、土台部分から、大きな相違があると考えられる。

さらに、成人の知的障害者施設であるF.A.M.（foyers d'accueil médicalisés）における聞き取りによると、フランスでは、施設の運営を担っている地方の親の会の協会は、その地域の施設の設置や、定員、人事、さらに、規定上は、成人の場合はC.O.T.O.R.E.P.（commission technique d'orientation et de reclassement professionnel）の役割である入所、入学認定に係る決定権を“実質的に”有しているように思われる。

これを考慮するならば、日本における社団法人日本知的障害福祉連盟にある4協会の連合に加えて、施設や学校の設置者である都道府県、市区町村の社会事業団の役割まで広く包含する力を持った団体の連盟であると考えられる。このことは、調査結果などを、わが国のシステムに役立てる検討をする際の重要な背景因子であり、今後、より正確に把握する必要があると考えられる。

## 6. 障害者の機会均等と社会への平等参加のための2005年2月法

(Loi n° 2005-102 du 11 février 2005)

法律全体として、それまでの障害者基本法であったla Loi du 30 juin 1975と比べて、最も大きな改革点は「障害によって生ずる困難の補償」とされ (INTÉGRATION SCOLAIRE & PARTENARIAT, 2005)。この第19条から第22条までが学校教育、高等教育、職業教育に関する内容である。第19条には、「全ての障害のある子どもが、居住地に最も近い学校に登録されるべきこと」が明記されたばかりでなく、既に特殊教育施設 (I.M.E.など) に措置されている子どもについても、上記の対象と成り得ると規定した。

このことについては、フランスの国立特殊教育総合研究所にあたるC.N.E.F.E.I.訪問の際に「2005年法は、見方によっては、大きく障害のある子どもの教育を変革するように見えるかもしれないが、実際には、フランスの特殊教育に大きな変化はないと考えている」と説明を受けた。事実、この法律は小・中学校における特殊教育の受け皿であったC.L.I.S. (Classes d'intégration scolaire) やU.P.I. (L'Unité Pédagogique d'Intégration) を修正するものではない (INTÉGRATION SCOLAIRE & PARTENARIAT, 2005) とされる。すなわち、子どもが、新法によって通常の小・中学校に登録される場合にも、従来通りC.L.I.S.あるいはU.P.I.の在籍となる。ここで問題となるのは、フランスにおける学校教育の現実であり、今後の就学動向などを分析し、今回の法改正については関連する政令が80以上あるとされており、あわせて、その成否を見極める必要があると考えられる。

例えば、Décret n° 2005-1587 du 19 décembre 2005によって、障害者とその家族に対するサービス (権利) を包括的に決定するMaison départementales des Personnes Handicapées (MDPH)が規定され、これまで県就学委員会 (C.D.E.S.: la commission départementale d'éducation spéciale) の役割は、成人を対象とするC.O.T.O.R.E.P.と共に、MDPH内に設置されるCommission des Droits et de l'Autonomie des Personnes Handicapées (CDA)に包含される形となっている。さらに、実地調査のインタビューでは2005年法より、2002年通知のインパクトが大きいとの指摘もあり、今後、さらに詳細かつ幅広い分析が必要と考えられる。

## 7. 終わりに

2005年2月法では、上述した以外にも、さまざまな改革が記述されている。上に紹介したフランスの国立

特殊教育総合研究所にあたるC.N.E.F.E.I.は、同法によって、l'Institut national supérieur de formation et de recherche pour l'éducation des jeunes handicapés et les enseignements adaptésという国立高等研究所に2005年1月に改組された。日本の国立特殊教育総合研究所が独立法人化したことと同じに語ることはできないが、これを定めるDécret n° 2005-1754 du 30 décembre 2005によれば、以前の教育省研究所から、教育大臣と高等教育大臣の所轄のいわゆる独立した機関となっていることが読みとれる。これについてはIUFM (Instituts Universitaires de Formation des Maîtres) と同様に、今後、大学院教育との連携の方向性の有無などについて見極めていく必要があると考えられる。

筆者は、フランスの特殊教育システムは、所轄の省の違いこそあれ、日本の特殊教育諸学校、特殊学級等を含めた教育システムは、フランスのそれに類似していると考えている。

現在、わが国において、通常の小・中学校に在籍するLD, ADHD, HFAなどの特別なニーズを持つ子どもへの対応を含めた教育改革が進んでいる。その中では、特殊教育学校が、それらの支援のために、地域のセンター的な役割を果たすことなどが期待されており、この分野におけるS. E. S. S. A. D.やA. V. S.など、フランスの経験に共に学ぶことができるものと期待している。

\*<sup>1</sup> 本稿執筆時において、UNAPEIは、知的障害者施設の解体などの急進的な方針を不服としてInclusion Internationalに対して脱退の通告をしている。

## 1 謝辞

本年度5回の実地調査は毎回、実質3日間程度という短い滞在ながら、現地のUNAPEIの全面的な協力により、研究が推進された。UNAPEIのLaurent Cocquebert所長はじめ、UNAPEIの方々に感謝申し上げます。とりわけ、欧州・国際担当Aymeric Audiau氏、Julie Laubard女史、法規担当Solène Pelletierの3氏とは、送受信合わせて60通を超えるメールの交換が行われた。また、研究所常務総括主任研究官にはドイツにおけるPsychomotorikについてご教示を頂いた。ここに記して感謝の意を表する次第である。

## 引用文献・資料等

Baligand, Pierre: PRÉSENTATION CRITIQUE DES AUXILIAIRES DE VIE SCOLAIRE. (Webサイト: <http://scolaritepartenariat.chez-alice.fr>内), 2005.

General information, France, European Agency for Development in Special Needs Education Web サイト [http://european-agency.org/site/national\\_pages/france/general.html](http://european-agency.org/site/national_pages/france/general.html), 2005.

INTÉGRATION SCOLAIRE & PARTENARIAT (Webサイト : <http://scolaritepartenariat.chez-alice.fr>), 2005.

UNAPEI: Operation Scolarisation, Revue de Presse Au 8 Juillet, 2005

社団法人日本知的障害福祉連盟Webサイト : <http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/>

金子 健 : フランスの視覚障害教育について. 弱視教育第 41 巻第 1 号, 2003.

當島茂登 : ドイツにおける「発達障害児への運動を中心とした指導内容及び指導法に関する研究」報告 独立行政法人国立特殊教育総合研究所 世界の特殊教育 (XVII) 2003.

星野常夫ほか: フランス全国親の会「UNAPEI」フランス全国親の会の活動 (訳) , フランス障害児教育の研究 5, フランス障害児教育研究会編, 1991.

棟方哲弥 : フランスの発達障害教育, 発達障害指導辞典第 2

版, 編集代表小出進, 学習研究社, pp. 570-572, 2000.

棟方哲弥 : フランスにおける特殊教育の教育課程について, 21 世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究, 国立特殊教育総合研究所プロジェクト研究報告書, pp87-90, 2004.

棟方哲弥 : カサノバ統合学校, フランスにおける特別なニーズを有する子どもの指導に関する調査, 主要国の特別なニーズを有する子どもの指導に関する調査研究 (科学研究費補助金 (特別研究促進費 (2) 研究成果報告書 : 研究代表者千田耕基)) pp.57-59, 2002.

## Fonctionnement des SESSAD et nouvelles d'éducation spécialisée en France

M. Tetsuya Munekata

le département de politique et de planification, NISE

Nous menons actuellement un projet qui bénéficie d'une subvention de recherche du MEXT sur le thème suivant : Fonctionnement et évaluation des SESSAD en France, services d'éducation spécialisée et de soins à domicile avec soutien apporté par des établissements spécialisés à des écoles ordinaires - Apports de ce système au dispositif d'éducation avec soutien spécial pour enfants handicapés dans les écoles primaires et les collèges japonais».

L'équipe de recherche s'est déjà rendue à plusieurs reprises en France et a pu, grâce à l'aide de l'UNAPEI, mener des enquêtes sur l'éducation spécialisée en France.

Aujourd'hui, le Japon a entrepris une réforme de l'éducation dont l'un des volets est de prendre en compte les besoins spéciaux d'enfants dans les écoles primaires et des collèges, difficultés d'apprentissage, TDAH ou autisme. Dans ce cadre, les écoles d'éducation spécialisée seront appelées à jouer un rôle de centre local pour soutenir ces efforts. C'est pourquoi nous espérons vivement que le Japon pourra beaucoup apprendre de l'expérience française.

## 自主シンポジウム 31

### 障害のある子どもの認定と学校・支援の決定

#### —海外の国々の取組に関する比較検討から—

企画・司会者 徳永 豊 (国立特殊教育総合研究所)  
話題提供者 藤本裕人 (国立特殊教育総合研究所)  
横尾 俊 (国立特殊教育総合研究所)  
金子 健 (国立特殊教育総合研究所)  
石川政孝 (神奈川県立武山養護学校)  
指定討論者 徳永 豊 (国立特殊教育総合研究所)  
KEY WORDS : 就学 学校・支援決定 支援体制 比較研究

#### 【企画趣旨】

障害のある子どもや特別な支援の必要な子どもの認定及び学校決定の手続きに関して、日本と海外の国々の取組について、①認定の基準や手続き、②学校決定までの協議、③判断主体や④不服申し立て等を整理する。それらの取組の特徴、強みや実態（現状）を検討するとともに、支援の必要性の認定及び学校決定の手続きの適切な在り方（方向性）とは何かについて検討し、必要な対応（行動計画）について協議する。

#### 【話題提供 日本：藤本裕人】

我が国の就学に関する規定は、まず「就学義務」の大前提のもとに、大きくは「小・中学校への就学」と「盲・聾・養護学校（特別支援学校）への就学」、そして「就学猶予・免除」の規定が示されている。平成14年の学校教育法の一部改正によって、医学の進歩等を踏まえて盲・聾・養護学校の就学すべき障害の程度（「就学基準」）が改正（14文科初第148号通知）されると同時に、ノーマライゼーションの進展と地方分権の推進などの特殊教育を巡る状況の変化を踏まえ、①就学に当たり、専門的知識を有する者の意見聴取の規定（従前の301号は通知レベル）や、②「盲・聾・養護学校」の就学基準に該当する児童生徒で市町村の教育委員会が小・中学校において適切な教育を受けることができる特別の事情があると認める者（「認定就学者」）についての規定の整備が行われた。

#### 【話題提供 イギリス：横尾 俊】

①特別な支援が必要か否かの基準は、学習の困難さであり、その際に、学校決定の基準となる障害の程度の記述はない。就学の基本は通常学校であり、特別支援学校の場合は条件がある。通常の学校か、特別支援学校。法令上、特別支援学級という記述は見つからない。特別支援学級に類似したユニットという特別なセクションをもつ学校はあるが、一般的ではない。②判定書（statement）を作成する際には、保護者（本人）、教育関係者（校長）、医学、心理学、社会福祉などの専門家のチームで対応をする。その中に、学校決定の要素が含まれる。判定書を作成するか否かについては、学習における困難さが明らかで、異なる支援が必要な場合であるが、明確な基準はなく、法定アセスメントの結果に基づき、専門家チームで判断される。③保護者や本人の意見がかなり尊重されているが、最終的には地方教育局。保護者の意見が優先されない場合は、通常学級を希望する場合は、他の子どもの教育環境への影響が検討され、高額な特別学校を希望する場合は、適切な教育と予算の有効活用が検討される。④就学手続きに不服申し立て、及びSEN調停所がある。調停所で調停する問題か否かが審議され、対象でなければ地方教育局に戻される。

#### 【話題提供 フランス：金子 健】

①2005年2月法により「居住地に最も近い学校に登録されるべきこと」とされ、全ての子どもが居住地に最も近い通常学校に登録されるが、個別のニーズにより、実際の教育の場やサービスは、厚生省系特殊教育機関およびサービス、文部省系特殊教育学校、特殊学級、通常学級である。障害やニーズの把握には「障害認定基準」が参照される。なお、保護者の意思で通常学校に登録しないことも可能である。②2005年2月法により2006年1月から、子どもと成人両者対象の「障害者県の家」（MDPH）がつくられ、そのもとに「障害者の権利と自立委員会」（CDA）と、障害者のための補償計画をつくりフォローアップを行う専門家チームがおかれる。この補償計画には、「学校教育個別計画」が含まれる。③④通常学校への就学手続きは通常の子どもの同じである。ただし、保護者は就学先の学校長と、特別な支援を含む教育体制について協議する。それでうまくいかない場合は、MDPHに申し出て、CDAが別の教育サービスを考える。2005年2月法以前は、就学先の通知から1ヶ月以内で特殊教育委員会に対しての無料の上訴、また、その通知から2ヶ月以内で障害者訴訟裁判所へ不服申し立てが可能だった。2005年2月法以後は、全ての障害児を通常学校に在籍させるので、通常学校に在籍できないという点での不服申し立てはなくなったと考えられる。

#### 【話題提供 イタリア：石川政孝】

①障害の判別は国全体として、ASL（地域保健機関）によって行われている。国として特殊学校及び特殊学級が廃止されたので、学校の種別等を判断する基準はない。地域によっては国立・市立・私立の選択がある。②障害者としてサービスを利用するか、障害の認定を含め家族の意思が基本である。障害認定は生徒が居住する地域保健機関 USL。③動態機能プロフィール PDF 及び個別教育計画 PEI の作成・更新・検証は、新学期開始後、校長、担任教師、支援教師、USL の専門家、市の教育補助員により構成されるオペレーティンググループ（少なくとも年3回）の専門家間ミーティングで行われる。PDF と PEI の定義及び検証については家族が参加する。④県段階のプログラム協定（連携の役割分担合意）において、利用者がサービス内容の不実施について指摘する必要がある場合に、1）オンブズマン制度のある市の義務については、市のオンブズマンへ、2）県の業務やオンブズマン制度のない市の義務に関しては、県のオンブズマンに申し立てる。当該オンブズマンは、それを監督組織に通知する。

(Yutaka Tokunaga, Hiroto Fujimoto, Shun Yokoo, Takeshi Kaneko, Masataka Ishikawa)





**Union Nationale des Associations de  
parents, de Personnes Handicapées  
Mentales, et de leurs amis.**

Son action se situe dans le champ du  
Handicap mental et du polyhandicap  
(650 000 personnes en France)



**L'UNAPEI est une Union  
d'organisations privées à but non  
lucratif**

- Une fédération d'associations qui sont  
autonomes
- Sa structure est calquée sur les divisions  
territoriales administratives françaises (Nation,  
Régions, Départements, Localités)



**L'UNAPEI un mouvement de  
parents et de personnes  
handicapées mentales**

➤ Une organisation parentale

Une identité parentale très forte, fruit de  
l'Histoire du mouvement UNAPEI

➤ Une organisation gestionnaire

Etablissements et services



**Son objet**

- ✓ faire reconnaître le handicap mental
- ✓ représenter les intérêts des personnes handicapées mentales  
auprès de pouvoirs publics nationaux et internationaux
- ✓ défendre le rôle et les droits des familles
- ✓ informer les associations et de les soutenir dans leurs actions  
quotidiennes
- ✓ fédérer les associations qui lui sont affiliées et de coordonner  
l'ensemble de leurs actions



**Ses Valeurs**

- ✓ la dignité, et la citoyenneté de la personne  
handicapée mentale ;
- ✓ le respect de la personne handicapée mentale ;
- ✓ la qualité de vie de la personne handicapée mentale ;
- ✓ la participation de la personne handicapée mentale ;



**Le siège de l'UNAPEI  
(Paris)**

45 professionnels. Activités financées par cotisations, opérations collecte  
de fonds, dons et legs, mais très peu par Etat

**Sa vocation : informer, conseiller, représenter**

- **Informer** : publications, formations, communication
- **Conseiller** : juridique, dans tous les domaines de la vie sociale  
(Nouvelles technologies, sports, culture, loisir, vie professionnelle,  
assurance,...), grâce aux différents services : juridique, Europe et  
international, gestion des structures, communication, formation, vie  
sociale, assurances ; documentation.
- **Représenter** : défendre les intérêts des PHM, de leurs familles et des  
associations qui les soutiennent.



## UNAPEI L'UNAPEI en chiffres:

- ✓ 700 Associations locales, départementales et régionales sont membres
- ✓ ces associations regroupent 60 000 familles.
- ✓ elles ont créé et gèrent 2 900 établissements et services spécialisés
- ✓ qui accueillent et accompagnent 180 000 personnes en situation de handicap mental
- ✓ ces associations emploient 75 000 professionnels
- ✓ L'UNAPEI compte 85 Associations Tutélaires qui assurent la protection juridique de 35 000 personnes adultes.



## La place du handicap et le rôle de l'UNAPEI

|                    | Ensemble                                                                  | Personnes Handicapées                                         | %                    | Dont UNAPEI               | % UNAPEI                                 |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|----------------------|---------------------------|------------------------------------------|
| Structures         | 24 500                                                                    | 10 700                                                        | 43,7 %               | 2 700                     | 10,2 %                                   |
| Places             | 1 050 000                                                                 | 331 000                                                       | 31,5 %               | 180 000                   | 17,14 % (ensemble)<br>54,38 % (handicap) |
| Salariés           | 400 000                                                                   | 152 700                                                       | 38,2 %               | 75 000                    | 16,25 % (ensemble)<br>42,57 % (handicap) |
| Financement (2001) | 8.1 Mds (Assurance Maladie)<br>1.42 Mds (Etat)<br>5.34 Mds (Départements) | 5.24 Mds (Ass Maladie)<br>1.02 Mds (Etat)<br>1.83 Mds (Dépts) | 64 %<br>72 %<br>34 % | (1/8 budget des hôpitaux) |                                          |



## Le budget social du handicap en France

**24.39 milliards d'euros** (année 2000)  
(places en établissement + prestations d'allocations et de pensions diverses)



## Le handicap mental en chiffre (enfants)

**Les enfants**  
Établissements d'éducation spéciale et services : 2 892 structures totalisent 131 070 places.

**Scolarisation :**  
Près du quart des enfants handicapés ne sont pas scolarisés (94% en cas de polyhandicap, 78 % en cas de retard mental sévère)

52 000 enfants sont intégrés individuellement. Dans le 1er degré, la majorité est atteinte de déficience mentale ou psychique.  
50 000 enfants fréquentent une unité scolaire spécialisée, le plus souvent une classe d'intégration spéciale (CLIS).  
Les structures médico-sociales accueillent 115 000 enfants, dont 58% scolarisés à temps plein.

**Les besoins (chiffres 2003)**  
Enfants : 6 000 places manquantes (établissements spécialisés)  
20 000 enfants pouvant être intégrés en école « ordinaire »  
Adultes : 33 000 places manquantes



## La scolarisation des enfants handicapés mentaux

- I) La Loi du 11 février 2005
- II) Le parcours administratif: les maisons départementales du handicap
- III) Les solutions proposées
  - La scolarisation en milieu ordinaire
  - La scolarisation adaptée
  - La scolarisation en établissement médico-social
- IV) Les enjeux et perspectives



## I) La Loi du 11 février 2005

- 1) L'esprit de la loi
  - Le rappel du droit à la solidarité nationale (article 2)
  - Le droit à compensation (article 12)



**UNAPEI**

**L'article 2 :**

« Toute personne handicapée a droit à la solidarité de l'ensemble de la collectivité nationale, qui lui garantit, en vertu de cette obligation, l'accès aux droits fondamentaux reconnus à tous les citoyens ainsi que le plein exercice de sa citoyenneté. (...)

A cette fin, l'action poursuivie vise à assurer l'accès de l'enfant, de l'adolescent ou de l'adulte handicapé aux institutions ouvertes à l'ensemble de la population et son maintien dans un cadre ordinaire de scolarité, de travail et de vie. Elle garantit l'accompagnement le soutien des familles et des proches des personnes handicapées. »



**UNAPEI**

**2) Le droit à la scolarisation (article 19)**

**Article 19**

« Art. L. 112-1. - Pour satisfaire aux obligations qui lui incombent en application des articles L. 111-1 et L. 111-2, le service public de l'éducation assure une formation scolaire, professionnelle ou supérieure aux enfants, aux adolescents et aux adultes présentant un handicap ou un trouble de la santé invalidant. Dans ses domaines de compétence, l'Etat met en place les moyens financiers et humains nécessaires à la scolarisation en milieu ordinaire des enfants, adolescents ou adultes handicapés.

« Tout enfant, tout adolescent présentant un handicap ou un trouble invalidant de la santé est inscrit dans l'école ou dans l'un des établissements mentionnés à l'article L. 351-1, le plus proche de son domicile, qui constitue son établissement de référence.



**UNAPEI**

**2) Le droit à la scolarisation (article 19)**

➤ L'obligation d'inscription à l'école

➤ L'Etat est tenu de dégager les moyens nécessaires à la scolarisation



**UNAPEI**

**II) Le parcours administratif**

( le parcours de l'enfant vers la scolarisation)

Placer la personne handicapée au centre des dispositifs qui la concernent en substituant une logique de service à une logique administrative.

**Les Maisons Départementales du Handicap**



**UNAPEI**

**B) Les Maisons Départementales du Handicap**

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>Exerce des missions</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Accueil, information,</li> <li>• Mise en œuvre décisions CDA</li> <li>• Gestion fonds départemental de compensation</li> </ul> <p><b>Désigne</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• La personne référente pour recevoir et orienter les réclamations individuelles des PH</li> <li>• Le référent pour l'insertion professionnelle</li> </ul> | <p><b>Met en place et organise le fonctionnement :</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Equipe pluridisciplinaire d'évaluation (EPE)</li> <li>➤ Commission des droits et de l'autonomie (CDA)</li> <li>➤ Procédure de conciliation interne</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



**UNAPEI**

**B) Les Maisons Départementales du Handicap**

**La Commission des Droits et de l'Autonomie**

1 Président élu .

Membres : 21

- 4 représentants du département
- 4 représentants des services de l'Etat
- 2 représentants : assurance maladie
- 2 représentants des organisations syndicales (1 employeur, 1 salarié)
- 1 représentant des parents d'élèves
- 7 membres d'associations de personnes handicapées
- 1 membre du CDCPH (conseil départemental consultatif des PH)

**+ 2 représentants des organismes gestionnaires d'établissements spécialisés, avec voix consultative**

 **B) Les Maisons Départementales du Handicap**

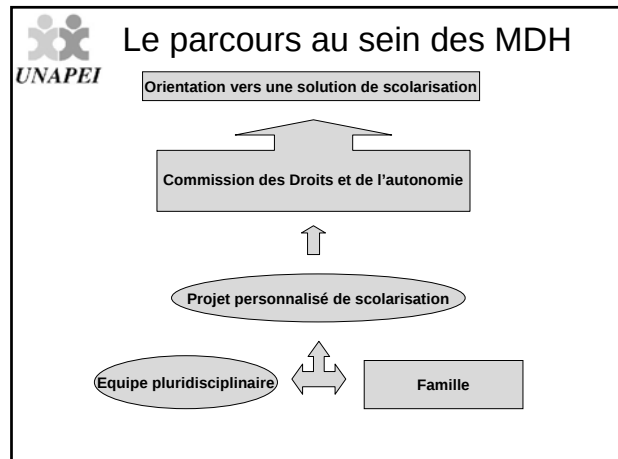
**L'équipe pluridisciplinaire d'évaluation**

Elle réunit des professionnels

- Psychologues
- Paramédicaux
- Assistants sociaux
- Enseignant(s)
- Médecins

**Evaluation des besoins**

Elle prépare le Plan personnalisé de compensation dont le Projet Personnalisé de Scolarisation est un volet



 **III) Les solutions proposées**

**A) Les dispositifs communs aux diverses solutions**

- Le Projet personnalisé de scolarisation
- L'équipe de suivi de la scolarisation
- L'enseignant référent

**B) La scolarisation en milieu ordinaire**

**C) Les dispositifs adaptés**

**D) La scolarisation en établissement Spécial**

 **A) Les dispositifs communs aux diverses solutions**

**Projet personnalisé de scolarisation**

- définit les modalités de déroulement de la scolarité
- et les actions pédagogiques, psychologiques, éducatives, sociales, médicales et paramédicales répondant aux besoins particuliers des élèves présentant un handicap.

 **A) Les dispositifs communs aux diverses solutions**

**L'équipe de suivi de la scolarisation**

l'élève et /ou ses parents

- L'enseignant référent
- Le ou les enseignants de l'élève
- Toutes les personnes qui concourent à la scolarisation (y compris SESSAD)

**Rôle**

- Elle facilite la mise en œuvre et assure, pour chaque élève handicapé, le suivi de son projet personnalisé de scolarisation. Elle évalue les besoins, propose les aménagements, propose si besoin une autre orientation
- Elle évalue ce projet au moins une fois par an

 **A) Les dispositifs communs aux diverses solutions**

**L'enseignant référent**

- Un enseignant exerce les fonctions de référent auprès de chacun des élèves handicapés du département afin d'assurer, sur l'ensemble du parcours de formation, la permanence des relations avec l'élève ou ses parents s'il est mineur.

**Son rôle :**

- Accueillir et informer élève et parents lors de l'inscription
- Assurer le lien avec l'équipe pluridisciplinaire d'évaluation de la MDPH
- Réunir l'équipe de suivi de la scolarisation
- Contribuer à l'évaluation des besoins et à l'élaboration du PPS
- Favoriser la continuité et la cohérence de la mise en œuvre du PPS



## B) La scolarisation en milieu ordinaire

- 1) Le temps adapté de scolarisation
  - Emplois du temps adaptés
  - Scolarisation à temps partiel
- 2) Les Auxiliaires à la Vie Scolaire
- 3) Les SESSAD (Services d'Education Spéciale et de Soins à Domicile)



## C) Les dispositifs adaptés

- 1) Les CLIS (Classes d'Intégration Scolaire)
- 2) Les UPI (Unités Pédagogiques d'Intégration)



### Les CLIS

- Classe dans une école primaire ordinaire
- Groupe d'enfants (12 au maximum) présentant le même type de handicap.
- Des enfants dont le handicap ne permet pas d'envisager une intégration individuelle continue dans une classe ordinaire
- Temps d'intégration individuelle dans une classe de l'école où il peut effectuer des apprentissages scolaires à un rythme proche de celui des autres élèves.
- L'enseignant chargé d'une CLIS est un professeur des écoles qui fait partie de l'équipe pédagogique de l'école.
- Un auxiliaire de vie scolaire peut aider enseignant.



### Les UPI

Ils permettent d'accueillir dans un collège ou un lycée (Post UPI) ordinaire des élèves qui ne peuvent s'accommoder des contraintes parfois lourdes de l'intégration individuelle.

Capacités requises: "assumer les contraintes et les exigences minimales de comportement qu'implique la vie au collège et disposer d'une capacité de communication compatible avec les enseignements scolaires, les situations de vie et d'éducation collectives"

L'effectif est limité à dix élèves



## D) La scolarisation en établissement Spécial

- Les Instituts médico-éducatifs (IME) accueillent des enfants et adolescents atteints d'une déficience à prédominance intellectuelle
- Ils reçoivent généralement des enfants de 3 à 20 ans
- Les IME comprennent:
  - les Instituts médico-pédagogiques (**IMP**) pour les enfants de 3 à 16 ans et leur assurent un enseignement général et pratique
  - les Instituts médico-professionnels (**IMPRO**) dispensent une initiation professionnelle.



## D) La scolarisation en établissement Spécial

- Ils fonctionnent en internat, semi-internat ou externat
- Les frais de soins, d'hébergement et de transports sont pris en charge par la sécurité sociale
- Les frais de scolarité sont pris en charge par le ministère de l'Education Nationale
- Possibilité d'être scolarisé à temps partiel dans une école ordinaire



# 公開協議会

**名称：**フランスにおける知的障害者の支援の最新動向：科学研究費補助金基盤研究（B）  
海外調査「フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービス S E S S A D の成  
立と評価－わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与－」  
**於：**キャンパスイノベーションセンター404号室（東京都港区芝浦3-3-6）  
**時：**平成18年3月6日

## 発表者

棟方哲弥（独立行政法人国立特殊教育総合研究所）

エメリック・オデオ氏（UNAPEI 国際担当責任者）

赤堀哲雄氏（前茨城大学教授・前文部省調査局調査課フランス教育調査官）

金子 健（独立行政法人国立特殊教育総合研究所）

本資料は、上記の公開協議会からエメリック・オデオ氏（UNAPEI 国際担当責任者：  
Monsieur Aymeric AUDIAU, Responsable du Service Europe et International, UNAPEI）  
の発表部分を記録し、書き起こした内容である。

キャンパスイノベーションセンター404号室（平成18年3月6日）

棟方：さてフランスでは、教育省所管の小中学校における障害のある子供への特別なサービスとして、厚生省の特殊教育施設、あるいは親の会の団体が大きな役割を演ずるということが確認されています。実は日本におきまして、昨年12月8日に中央教育審議会の特別支援教育を推進するための制度のあり方という答申が出されまして、その中で、もちろんさまざまなことが検討されたわけです。盲・聾・養護学校の特別支援教育のセンター的機能ということ、進めなければいけないという答申が行われたところです。

一方世界におきましては、国連障害者の権利条約がおそらく2年後か3年後ぐらいには締結されるといいますか、作られるということで、日本におきまして、もちろん世界におきまして障害者の権利ということについての法律が、これからさまざまにでき上がってくる。あるいはすでにでき上がるということになると思います。もちろんフランスにおきまして2005年2月に、障害者の機会参加の権利、市民の平等についての法律と障害者の権利の法律ができ上がりまして、今回その話も含めてオデオさんにはしていただくということになると思っております。

本日ですけれども、まずオデオさんにUNAPEIのこと。また最新のフランスの特殊教育についてのお話をさせていただきます。

エメリック・オデオ氏

Bonjour, bonjour à tous. C' est un grand honneur d' être avec vous et c' est surtout un grand plaisir de pouvoir converser avec vous du système de l' éducation spéciale en France. (今日は皆様とこうしてお話しさせていただくことができまして、大変光栄でかつうれしく思っております。フランスの特殊教育の制度についてお話をしていきたいと思っております。)

Alors, mon propos va être en deux parties principales. La première partie concernera une présentation très rapide de l'UNAPEI et de ses activités et la seconde partie sera consacrée au système français d'accompagnement des enfants handicapés mentaux pour la scolarisation. (私の発表は二つに分かれておりまして、最初がUNAPEIという団体がどういうものであるか、また活動内容について。二つ目は知的障害者の教育に対して、どのような側面的な支援の活動方法があるのかということについてお話



をしたいと思います。)

Alors, l'UNAPEI signifie Union Nationale des Associations de Parents, de Personnes Handicapées Mentales et de leurs amis. Comme l'indique son nom, son action se situe exclusivement dans le champ de l'handicap mental et du polyhandicap. (UNAPEI ですが、これは知的障害者の親、及び友の会全国連盟を縮めたものです。ですのでここで対象としております障害者は、あくまでも知的障害者と重複障害者になります。)

On évalue en France le nombre des personnes handicapées mentales à approximativement 650,000 personnes. (だいたいフランスの知的障害者は 65 万人と見積もられております。)

Alors, notre association, notre union, l'UNAPEI est un groupement d'associations, c'est à dire que c'est une organisation privée qui a été constituée par des parents qui ont voulu unir leurs forces pour mieux défendre les intérêts de leurs enfants. (UNAPEI はいろいろな団体を統合いたしました連盟の形を取っておりまして、自分の知的障害を持っている子供たちの利害を守りたいという親が作った私的な団体です。)

Il s'agit donc d'une organisation à but non-lucratif et pour vous expliquer sa structure et son rôle actuel, je vais vous faire une petite partie sur l'historique de l'UNAPEI très rapide. (NPO でありまして、現在の役割、活動を見ていくためには、少し歴史的な側面も見たほうがいいと思いますので、簡単にまず歴史的な面から見ていきます。)

En fait l'UNAPEI est née juste après la Seconde Guerre Mondiale, de l'initiative de parents pour lesquels leurs enfants ne trouvaient aucune solution adaptée d'accueil ou d'accompagnement. (UNAPEI の母体は第二次大戦直後に生まれました。障害を持つ子供の親が、子供たちの世話をするなどで解決法が見つからないということで、そのための団体を作ろうということで作られました。)

Donc ces parents se sont regroupés pour essayer de trouver des solutions, créer les premiers établissements privés en France destinés à accueillir les enfants handicapés, et c'est ainsi qu'est née en 1948 la première association du mouvement UNAPEI. (親たちが障害者を持つ子供を受け入れる何か組織を作ろうということで、私的な団体として 1948 年に最初の団体ができました。)

Plus tard quand les associations se sont développées un peu partout sur le territoire français, ces associations ont ressenti la nécessité d'unir leur force pour pouvoir défendre leurs intérêts et surtout l'intérêt des personnes handicapées mentales dont elles s'occupaient au niveau national et donc c'est pour cela qu'a été créée l'UNAPEI, donc c'est l'Union des Associations qui existe partout en France. (この団体がフランスの全国あちこちにできるようになりました。1960 年ぐらいになりまして、それらの団体の力を合わせて、特に知的障害者に関しまして全国的な組織を持つことが必要だと感じられて、1960 年に連盟の形で UNAPEI というものはできました。)

Donc d'abord, les Associations locales se sont créées, ensuite elles ont décidé d'adhérer, de créer un mouvement national, une fédération qui s'appelle l'UNAPEI, ce qui veut dire que les associations membres de l'UNAPEI sont des associations autonomes qui décident volontairement d'adhérer à un mouvement collectif qui s'appelle l'UNAPEI. (まず地域的な団体ができて、それが集まって連盟を作

ろうということになりましたので、今の UNAPEI の加盟している団体も自立している団体であって、自分から連盟に入ろうという意思の下に入っているということです。)

L'UNAPEI donc, en termes de mouvement national s'est structurée en calquant son organisation sur la structure administrative française. Donc en France, vous avez l'Etat, les Régions, les Départements et le niveau local. Donc au niveau national, vous avez l' UNAPEI, au niveau régional les URAPEI, au niveau départemental les ADAPEI et au niveau local les APEI. (UNAPEI の組織の各段階があるんですけども、それはフランスの中央行政の段階と一致しております。フランスでは行政の権限を持っている段階といたしまして国、それから地方、地方の中に県、県の中の市町村という段階があります。 UNAPEI の場合は国レベルが UNAPEI。そして地方レベルが URAPEI です。県レベルが ADAPEI。市町村レベルは APEI というふうに行政単位と同じような形で分かれております。)

Comme je vous l'ai dit l' UNAPEI est née de l'initiative de parents, et ça, c'est très important parce que, en fait, cette identité, par cette histoire, par cette origine parentale du mouvement, constitue la marque d'identité principale de l'UNAPEI, à tel point que les statuts de l' UNAPEI imposent que dans toutes les associations du mouvement au moins un tiers (通訳は 1/3 を 2/3 と訳しています) des membres du conseil d' administration sont des parents et que le président doit être un parent de personnes handicapées mentales. (両親が発案して UNAPEI ができたという、この歴史的経緯というのが非常に重要でして、現在の UNAPEI のアイデンティティを形づくる基となっております。約款の中でもすべての、例えば理事会のメンバーの 3 分の 1 は親で構成されなければならない。障害者の親で構成されなければならない。それから理事長も障害者の親でなければならないなどの規定がございます。)

Donc l'UNAPEI est une organisation parentale, mais n'est pas qu'une organisation parentale mais il s'agit aussi d'une organisation gestionnaire, ce qui est finalement pas très courant en Europe où dans de nombreux pays, les organisations sont soit parentales, donc représentatives des personnes, soit gestionnaire, donc, gèrent des établissements et des services. (UNAPEI の特徴といたしましては、親が参加している障害者を代表する団体であると共に、障害者に対してサービスを行う、あるいは受け入れる施設などを持っている管理組織であるということが特徴です。ヨーロッパではこういう形態は非常に珍しく、どちらかに片寄る場合が普通で、親が集まって障害者の代表組織になるか、あるいはそういう施設などを運営する機関になるかどちらかが多いんですけども、両方やっているというのが特徴です。)

Là encore, c'est l'histoire qui explique cette double nature à la fois parentale et gestionnaire, puisque, après la Seconde Guerre Mondiale, les parents ont créé leurs propres établissements pour leurs enfants et qu'ensuite ils ont développé ces dispositifs et que l'Etat a finalement considéré que ces associations avaient bien mené leurs fonctions et qu'en plus, elles assurent un rôle de mission de service public et qu'en conséquence l'Etat, finalement, finance des établissements qui sont gérés par des associations parentales. (これ歴史的な根拠がありまして、第二次大戦後、親がそういう受け入れ施設をつくっていった、その施設などが発展をしていきます。それを後から国が、これは公共サービスとしての使命を果たしている機関であるということを認めまして、国が財政的に支援をするようになって、そういう施設が存在しているということです。)

Et pour être très rapide, sur la gestion des établissements et leur fonctionnement, je veux dire, lorsque les établissements apportent une prestation de soins, une prestation médicale, c'est l'assurance-maladie, c'est à dire la Sécurité Sociale qui finance l' établissement, lorsque l' établissement apporte une prestation autre qu' une prestation de soins, c' est soit l' Etat central, soit le département qui finance l' activité de l' établissement. (簡単に財政面と管理面についてお話をしますと, 例えば所有しています機関, 施設が治療などの医療活動を行う場合は, 国の社会保障の予算からお金が出るようになっています。それから施設で治療などを行わない, その他の活動をしている施設に関しましては, 国がお金を出すか, 県がお金を出すかという形で支援がございます。)

L'objet, donc le but de l'UNAPEI, tel qu'il est inscrit dans les statuts de notre organisation est le suivant: c'est d'abord faire reconnaître le handicap mental, représenter les intérêts des personnes handicapées mentales auprès des pouvoirs publics nationaux et internationaux, défendre le rôle et le droit des familles, informer les associations et les soutenir dans leur action quotidienne, fédérer les associations qui y sont affiliées et coordonner l' ensemble de leurs actions. (私たちの約款の中に組織の存在の目的が書いてあります。簡単にそれを申し上げますと, それは知的障害者を人々に認めさせるようにすること。それから知的障害者の代表として, その利害を国や公共機関, 国際機関に出して, 代表して利害を守っていくということ。それから家族の権利, また役割を擁護する。そして各種団体にいろいろな情報提供をするほか, 日常的な活動を支援していく。またさまざまな団体を統合し, そしてその活動を支援, 調整をしていくというような役割をしております。)

En haut de la pyramide que constitue l' UNAPEI, mouvement UNAPEI, vous avez donc le Siège de l' UNAPEI, du mouvement national. Vous avez la photo là, qui est notre immeuble à Paris. (ピラミッド構造に UNAPEI はなっておりまして, その頂点にありますのがパリにございます本部で, こちらの写真です。)

Vous avez donc dans ce siège 45 professionnels. L'activité du siège n'est pas financée par l'Etat. C'est vraiment une organisation privée, ou elle est financée d'une façon très, très marginale avec une toute petite subvention de l'Etat, mais ce sont donc des fonds privés, donc à la fois des dons, des legs, des cotisations des associations pour la plus grande partie et puis des opérations de "fund raising", des collectes de fonds. (本部には 45 人, 専門の者が勤めております。本部の運営費用は国からお金が出る部分はほんの少しでして, ほとんどは団体の会費, それから寄付, そしてまたさまざまなイベントや活動を通しての資金調達など, 非常に私的な資金の調達方法になっております。だから私的な団体と言えます。)

Pour vous donner un ordre d'idée, en fait, 48% du budget de l'UNAPEI provient des cotisations des associations-membres. Je dis bien "associations", parce que l'UNAPEI est une fédération, donc les personnes et individus ne peuvent pas adhérer, ce sont seulement les associations locales, départementales et régionales qui adhèrent à l' UNAPEI. (例えば UNAPEI の予算のすべての 48%が, 会費で賄われております。会費といいますと連盟ですので, 団体が会員になっていただくわけで, 個人が会員になることはできません。ですから市町村あるいは県レベルの団体が会員になる。)

La vocation du siège, elle est de 3 ordres, elle est d' informer, de conseiller et de représenter. (本部の

役割といたしましては情報提供, また代表としての役割, そしてアドバイスをするという役割があります。)

Informez, cette mission est remplie à travers diverses publications. donc, vous avez "Vivre Ensemble" qui est cette revue qui est destinée plutôt aux parents, aux familles de l' UNAPEI. (まず情報提供にしましては, 出版物やその他のコミュニケーションを通して行っておりまして, この UNAPEI 機関誌『Vivre ensemble』というのを発行しておりまして, 特に今これは家族や両親向けに作られております。)"Vivre Ensemble"qui est publiée à 61,000 exemplaires (こちらは6万 1000 部作られております。)

Vous avez également une publication juridique qui s'appelle "Juris Handicap", vous avez donc 10 numéros de "Juris Handicap"par an, et c'est une revue qui apporte des commentaires, des explications et des analyses uniquement juridiques sur tous les textes juridiques qui sont relatifs aux handicaps. (それからもう一つ発行している機関誌として, 年間 10 冊出ている『Juris-Handicaps』というのがあります。これは障害者に関する法律の説明, 分析, コメントに絞られている雑誌です。)

L'information passe aussi par la formation. Donc nous avons un service formation qui propose des services de formation à la fois aux professionnels, aux parents et également, bientôt, aux personnes handicapées elles-mêmes. L'information passe également par la communication, communication à l'attention des associations qui sont membres de l' UNAPEI, communication interne, et également communication externe vis-à-vis du grand public et la population en général pour communiquer sur l' handicap en général. (私どもはトレーニング部, 教育部というのがあります, プロ向けのさまざまなトレーニング, あるいは親向け, あるいは障害者本人に向けてのさまざまな教育も行っております。またこのトレーニングというのは, コミュニケーションを通して行われておりまして, さまざまな情報, 啓蒙活動を UNAPEI の中の団体向けにも行われておりますし, また外部の一般大衆向けにも行われております。)

Donc la deuxième mission générale de l'UNAPEI, c'est conseiller, conseiller c'est une fois encore les parents, les personnes handicapées elles-mêmes et aussi les associations qui sont membres de l'UNAPEI. Alors, ces conseils peuvent être des conseils juridiques, des conseils dans tous les domaines de la vie sociale, donc des nouvelles technologies, sports, culture, loisirs, assurance etc... Et donc, pour mener à bien cette mission de conseil, on a divers services au sein de l'UNAPEI, donc service juridique, un service Europe et International, un service de gestion des structures, un service assurance, un service formation, communication et vie sociale et documentation. (それからアドバイスをを行うというカウンセリングの役割も果たしておりまして, 特に司法関係など, それから普通の社会生活を行うという面で, ニューテクノロジーなど, あるいはスポーツ, 文化, 娯楽, 職業生活, 保険などさまざまなテーマでのカウンセリングをしています。そのための特殊なさまざまな課を持っておりまして, 司法課, ヨーロッパ・国際課, さまざまな機構の管理課, コミュニケーション課, トレーニング課, 社会生活課, 保険課, 資料課などを持っております。)

La dernière mission, c'est de défendre les intérêts des personnes handicapées mentales, de leurs familles et des associations qui les soutiennent, et donc pour cela l'UNAPEI participe à des réunions fréquentes avec les différents ministères concernés, avec le Parlement, le gouvernement, avec le

Président de la République, soit au niveau national et également international avec la Commission Européenne, le Parlement Européen, et tout un tas d'organisations internationales qui concernent l'handicap mental. (また私たちは知的障害者の利害を擁護する代表組織でもありますので、さまざまな国内で開催される各省庁が開催する会議、あるいは国会、あるいは大統領や政府の出席する会議などにも代表として出ます。また国際的には EU の会議、あるいは？ユーロ議会などにも出席します。)

Et pour finir sur cette présentation générale de l'UNAPEI, je vais vous donner quelques chiffres qui vont vous donner un peu une idée de la dimension de notre association. Tout d'abord, notre association c'est la principale, et de loin, l'association consacrée au handicap mental en France, mais c'est également, c'est une des principales, l'une des plus importantes organisations en France dans le domaine social, tous domaines confondus. (UNAPEI の一般的な説明の最後といたしまして、いくつか数字を申し上げたいと思うんですけれども、フランスでは知的障害者の会といたしましては最大のものです。またこういう社会福祉団体としまして、すべての分野を合わせて最大のものです。)

L'UNAPEI c'est 700 associations locales, départementales et régionales membres qui représentent, qui regroupent 60,000 familles. (加盟団体は市町村、県、地方を合わせまして 700 ありまして、その団体に所属している家族が 6 万家族います。)

Les établissements du mouvement UNAPEI, les associations, pardon, les associations du mouvement UNAPEI gèrent 2900 établissements et services spécialisés qui accompagnent et accueillent 180,000 personnes handicapées mentales. L'ensemble du mouvement UNAPEI, en fait, représente un nombre très important, considérable d'employés, puisque, en tout, l'Association emploie 75,000 professionnels. (私どもが管理しております施設や特殊サービスは 2900 に及びまして、そこで 18 万人の障害者を受け入れております。そして雇用の面でも非常に大きな団体でして、全部の団体で働いている専門の人たちを合わせまして 7 万 5000 人おります。)

Je vais vous proposer un tableau qui présente la part de l'UNAPEI dans la gestion des établissements en France. (こちらの表を見ていただきたいんですけれども、フランスにございます障害者のための施設の中で、UNAPEI が全体の 54.38%を占めているかを示している表です。)

En fait, je vais passer très rapidement, parce que nous n'avons pas beaucoup de temps, mais la partie la plus intéressante, je pense, est la ligne, la deuxième ligne, la ligne PLACES qui indique qu'en France, il y a 331,000 places pour les personnes handicapées, tous handicaps confondus, que sur ces 331,000 places, l'UNAPEI en gère 180,000. et ça représente donc 54.38% du total des places consacrées aux personnes handicapées en France. Vous pouvez imaginer que si l'on reprend ces chiffres uniquement pour les handicapés mentaux, ça devient encore plus important. (時間がないので全部は説明いたしません、2行目の「Places」というところを見てほしいんですけれども、これは受け入れの障害者の人数を言います。全国ですべての障害者の受け入れ施設の受け入れ人数を見ますと、知的、その他全部合わせて 33 万 1000 人です。それに対してその隣、UNAPEI が施設に受け入れている人数は 18 万人ですので、それも知的障害者だけですので、フランスの知的障害者に絞りますとかなりのウェイトを UNAPEI は占めている。障害者全体にしましても、かなりのウェイトを占めているということがわ

かるかと思います。)

Juste, toujours dans la même logique, celle de vous donner les éléments qui vous donnent un ordre de grandeur, en fait le budget social de l' handicap en France est de 24,39 milliards d' euros (je n' ai pas eu le temps de faire la conversion en yen!) (フランスの障害者全体に割り当てられております福祉予算ですけれども、これが 243.9 億ユーロになっております。ちょっと日本の円に換算する時間がありません。)

Alors, pour vous parler, enfin, pour vous donner quelques chiffres de plus, ces chiffres concernent plus spécifiquement l'éducation spéciale en France. Donc vous voyez qu'il y a en France 1208 structures (ce sont des chiffres de 2001), mais 1208 structures, d' établissements d' éducation spéciale et de services pour enfants handicapés mentaux en France, soit à peu près 4,5 structures pour mille habitants de 0 à 19 ans. (フランスで知的障害者に対する教育施設やサービスについてちょっと見ていきたいと思うんですが、全体では 1208 機構ございます。これは 2001 年の数字ですので少し前の数字になりますけれども、ゼロ歳から 9 歳までの 1000 人当たりの住民に対して 4.5 施設あるということになります。)

L'UNAPEI en gère plus de la moitié, puisque l' UNAPEI gère 620 structures pour l'éducation spéciale pour enfants. L'ensemble de ces structures, ça concerne en fait 71,207 places, donc ça veut dire que ça représente 54% de l'ensemble des places pour personnes handicapées. Ces 71,207 places sont uniquement pour handicaps mentaux, sur ces 71,207, l' UNAPEI en gère 27,500. (この 1208 あります施設やサービスの中で、620 を UNAPEI が管理しておりますので、半分以上ということになります。それからこちらは知的障害者だけのものですが、それは 7 万 1207 人受け入れができる施設であります。ですので、すべての障害者の受け入れキャパから考えますと、54%ということになります。そのうちの 2 万 7500 人分を UNAPEI が提供しているということです。)

Maintenant, je vais passer à la partie consacrée d' une manière plus spécifique à la scolarisation des enfants handicapés mentaux. (次に知的障害者の教育についてです。学校制度などについてお話をします。)

Je vais vous parler très brièvement de la Loi du 11 février 2005 dont Monsieur Munekata a fait référence tout à l'heure. Ensuite, je vous expliquerai quel est le parcours qu'un enfant doit suivre au sein de l'administration pour être orienté vers tel ou tel type de solution d' éducation. Je vous présenterai ensuite ces solutions, de quels types sont-elles et enfin une très rapide partie de cet exposé consacré aux enjeux et perspectives. (先ほどお話がございました 2005 年 2 月 11 日の法律について簡単にご説明をした後、障害者の子供がどのような教育を受けていくべきかという、行政的に振り分けをするときにどのような形で振り分けをしていくのか。それからその振り分けられた教育制度というのはどういうものがあるのか。そして将来的な展望について簡単にお話をしていきます。)

La Loi du 11 février 2005. Cette Loi, en fait, elle s'intitule "Loi pour l'égalité des droits et des chances, la participation et la citoyenneté des personnes handicapées" Cette Loi remplaçait une loi qui commençait à être assez ancienne, qui était la loi du 30 juin 1975, qui était la loi dite "d' orientation pour les droits des personnes handicapées" (この法律ですけれども、2005 年 2 月 11 日の法律でして、機会均等、権利均等、障害者の社会参加及び市民権についての法律ということです。1975 年 6 月 30 日に

その基となる法律がありまして、こちらは障害者のための指針法という法律が基になっています。)

Je peux vous présenter cette loi, parce qu'elle est certes très intéressante, mais on n'aura pas le temps ici, mais je vais d'abord vous expliquer un peu quel est l'esprit de cette loi, et ensuite on traitera des questions de scolarisation, comment cette loi aborde la scolarisation et qu'est-ce qu'elle apporte de nouveau en matière de scolarisation. Tout d'abord, cette loi, c'est important de le savoir, c'est qu'elle rappelle que les personnes handicapées ont le droit à la solidarité nationale, c'est son article 2. Cet article est le suivant: "Toute personne handicapée a droit à la solidarité de l'ensemble de la collectivité nationale, qui lui garantit en vertu de cette obligation, l'accès aux droits fondamentaux reconnus à tous les citoyens, ainsi que le plein exercice de sa citoyenneté." (この法律を説明するだけの時間というのがございませんけれども、どのような考え方なのか。またどのように教育というものを扱っているのかを簡単にご紹介します。この 2005 年 2 月の法律ですけれども、障害者は国を挙げての連帯を受ける権利があるということをうたっておりまして、すべての障害者は国の集団の連帯を受ける権利がある。そしてそれは保証されていて義務でもあり、またすべての市民に与えられる基本的な権利を障害者も有すると書いてあります。)

Le second point important à savoir concernant cette loi, c'est qu'elle instaure ce qu'on appelle le droit à compensation. C'est un nouveau dispositif dans le droit français. La compensation, c'est un concept selon lequel une personne handicapée a le droit d'obtenir tous les moyens ou tous les outils qui vont permettre de répondre à ses besoins. (それからこの 2005 年 2 月の法律のもう一つの柱は、フランスでは新しい措置ですけれども、障害者はそれに見合うコンペンセーション (compensation)、保障を受けることができるということを言っています。そのコンペンセーションというものは、障害者が必要とするすべてのことを手段として、あるいはツールなどをその人に提供しなければいけないというものです。)

De ce concept de compensation est né le droit à compensation, ce qui signifie que la personne handicapée a le droit à une réponse individuelle et adaptée à ses besoins. Cette réponse peut être d'ordre technique, donc par exemple une prothèse pour une personne handicapée physique, elle peut être d'ordre humain, l'accompagnement humain à la personne dans un établissement scolaire par exemple, elle peut être financière, c'est savoir si la personne a besoin d'allocations publiques pour lui permettre de compenser son handicap, ça peut être également une compensation d'ordre juridique, mais là dessus, je ne vais pas m'attarder davantage. (そのコンペンセーションを受ける権利をこの法律の中でうたっているわけです。ですので、その人のニーズに適合した個々の対応をしていく必要があるということを法律でうたっております。そのコンペンセーションというものは、技術的なコンペンセーションでありうることもあります。例えば身体的な障害者である場合は、義手とか義足とかそういうような人工的な機器。それから人の支援ということもコンペンセーションに入ってきてまして、学業においてフォローする人とか。それからお金の面では手当てということなどなど、金銭的なコンペンセーション。それから法的なコンペンセーションというように、いろいろなものを網羅したものがコンペンセーションであると考えられています。)

Alors, concernant la scolarisation proprement dit, en fait, la loi en traite notamment dans son article

19. Je vais vous le dire, parce que c'est intéressant de le dire: l'Etat met en place les moyens financiers et humains nécessaires à la scolarisation en milieu ordinaire des enfants, adolescents ou adultes handicapés. Tout enfant, tout adolescent présentant un handicap ou un trouble invalidant de la santé est inscrit dans l'école ou dans des établissements mentionnés à l'article 1, le plus proche de son domicile qui constitue son établissement de référence. (この 2005 年 2 月の法律の第 19 条に、学業を受ける権利というのがございます。この法律は国がその身体、あるいは知的な障害を持った子供、あるいは大人に対して、普通の状況下で教育を受けさせる金銭的、あるいは人的な手段を講じる。そしてまたすべての子供など障害者は学校に登録し、そして自分の自宅の一番近い施設に入ることができるというようなことをうたっております。)

En fait, c' est un peu une petite révolution dans le système français, puisque au paravant dans la loi de 1975 elle imposait une simple obligation éducative, une simple obligation d' éducation pour la personne handicapée mentale, mais ne parlait pas de scolarisation, même si le principe était de traiter la personne handicapée mentale en milieu ordinaire, la loi, elle, ne parle que d'obligation éducative. Désormais, les choses changent, puisque l'enfant doit être inscrit dans une école de référence, l' école la plus proche de son lieu de lit et par cela, en fait, on donne une véritable existence scolaire à l' enfant. L' enfant, lorsqu' il est inscrit, est reconnu par l' école et donc ça change tout par rapport au dispositif antérieur. (これはフランスの障害者の法律に関しましては非常に革命的なこととして、1975 年の基になりました法律には教育を受ける義務があるということだけしか言っておりませんで、学校に登録させるとか、実際に学校に入れさせるというようなことが書いていないわけです。今回の法律に関しましては、住まいの一番近くの学校がレフェランス (référence) となる学校である。そしてその学校に登録をするということを明記しておりますので、そういう意味では学校に入ることは認められたということです。)

Alors qu'est-ce que cette inscription, cette obligation d'inscription scolaire, d'inscription à l'école plutôt. En fait, c'est l'inscription que doit faire tout enfant dans une école quel qu'il soit. Tout enfant doit être inscrit dans une école, donc comme pour cet enfant "ordinaire", entre guillemets, cette inscription n'est pas automatique, c'est aux parents de faire la démarche d'inscrire l'enfant à l'école. Les parents ne sont pas obligés d'inscrire, mais l'école n'a pas le droit de refuser l'inscription. (ですので学校に登録する義務が出てくるわけです。いま義務教育の場合は、どんな子供でも学校に入れなければいけませんけれども、健常者の場合は当然ですけども、健常者と違うのは、障害者の場合は親が登録をすることになります。親は登録をしなくてもいいんですけども、登録をした場合学校側が拒否することはできないというこの法律です。)

Donc plus précisément, en fait, l'école ou l'établissement scolaire du secteur d'habitation de l'enfant devient son établissement scolaire de référence, qu'il y poursuive ou non sa scolarité. L'inscription ne signifie pas que l'enfant va suivre sa scolarité dans cet établissement. (このレフェランスとなる住宅に近い学校に登録をするわけですけども、登録をしたからといって学校が完全にそれをフォローするというわけではありません。)

Ce n'est pas l'inscription qui détermine l'orientation de l'enfant, mais c'est en fait, je reviendrai plus longuement par la suite, le projet de personnaliser la scolarisation de l'enfant qui va déterminer quelle est l'orientation préférable pour lui. Donc il faut vraiment déconnecter cette idée d' inscription de l' orientation de l' enfant. (学校に登録をした, だからといってその子がどういう授業を受けるかということが決まるということではありません。その子がどのような学業をしていくのかということは, 子供の個々の学業を決めるパーソナルプロジェクトというのが組まれることになります。PPS と言うんです。ですからその方針を決めるということと, 登録するということは二つ別々のことだと考えてください。)

Un intérêt un peu plus matériel à l'inscription à l'école, c'est que ça va permettre ensuite aux associations représentatives des enfants handicapés mentaux de dire "voyez combien d'enfants se sont inscrits dans ces écoles et combien de places vous mettez à notre disposition?", alors que jusqu'à présent, les statistiques étaient très difficiles à avoir. Là, grâce à cette inscription dans les écoles, on saura exactement combien d'enfants sont inscrits, combien ont trouvé des solutions, combien n'en ont pas trouvée. (障害者を代表する団体といたしましては, この登録義務ができたことから, 非常に統計を取るのが容易になりました。登録数がわかりますし, どれくらいの子供が登録をされ受け入れられているのか。そしてどれくらいの子供がその子に合った解決方法を見つけたのかということがわかるようになっていきます。)

Maintenant, je vais vous parler du parcours administratif, le parcours que l'enfant doit suivre pour son orientation vers tel ou tel type de solution de scolarisation. Je vais être assez rapide parce que c'est technique, et toutes les vignettes qui étaient proposées sur vos papiers ne seront pas présentées. (子供がどのような学業をしていくのかという行政的なオリエンテーションの方法について, 一応技術的なものですが, 簡単に皆さんにお渡ししたスライドを全部使うわけではありませんけれども説明をしていきます。)

Ce qui est très important de connaître pour comprendre le parcours administratif d' un enfant, ce sont les Maisons Départementales du Handicap. C' est une nouveauté qui a été instaurée, une fois encore, par la Loi du 11 février 2005. (まず 2005 年 2 月 11 日の法律で新しくできたものとして, 障害者のための県立障害者の家というものがありました。これが一つの大切な機関です。)

En fait l'idée ou l'esprit de cette Maison Départementale du Handicap, c'est de constituer un guichet unique, un lieu unique auprès duquel ou au sein duquel les parents, et toutes les personnes concernées par le handicap et les personnes handicapées elles-mêmes pourront se rendre pour obtenir toutes les informations et pouvoir effectuer toutes les démarches administratives utiles pour la personne handicapée. (こちらは県で一つの統一窓口を作って, そこに行けば親であれ本人であれ, あるいは関係者であれ, 行政手続きをどのようにしていけばいいのかという情報が得られるという窓口づくりでした。)

Dans chaque département vous aurez une Maison Départementale du Handicap qui permettra à l'ensemble des personnes concernées d'accéder à leurs droits, et quelque part, on substitue à un dispositif précédent qui était un dispositif qui s'inscrit dans une logique très administrative. Là, davantage un dispositif qui est un dispositif de service à rendre à la personne ou à sa famille. (ですの

で各県に一つの県立障害者の家があるわけですが、以前の考え方は行政側からの理屈を基に、いろいろな組織が成り立っていたわけです。けれどもこの新しい県立障害者の家というのは、サービスを本人、あるいは本人を代表する人たちに与えるという考え方から作られたものとして、考え方がガラッと変わりました。)

Alors, quelles sont les missions de ces Maisons Départementales du Handicap? Je vais vous faire une définition générale très rapidement. C' est d' abord une mission d' accueil, d' information, d' accompagnement et de conseil des personnes handicapées et de leurs familles, puis ensuite une mission de sensibilisation de tous les citoyens au handicap. (どのような役割があるのか簡単に言いますと、受け入れ情報提供、また世話をするなどなど、本人に対して、あるいは家族に対してアドバイスをします。それから市民に障害についての啓蒙を行う。)

Egalement, une mission d' évaluation des besoins des personnes handicapées et de leurs familles par la mise en place d' une équipe pluridisciplinaire. (また多分野を網羅するチームを作って、家族や本人のニーズを評価していく。そしてそれらが役割ですが、この県の家の中には権利と自立の委員会というのが作られておりまして、こちらが本人、あるいは家族に対してどのような権利を持っているのかを知らせる。またさまざまな方向付けをするための支援をしております。)

Il existe également au sein de cette Maison Départementale du Handicap, la Commission des Droits et de l'Autonomie qui est chargée d'attribuer et de reconnaître les droits des personnes handicapées, ainsi que de les orienter vers tel ou tel dispositif d'accueil ou d'accompagnement. Enfin, et pour terminer, elle est également chargée d'apporter, enfin, de décider de l'octroi des prestations financières qui vont permettre à la personne handicapée de faire face à son handicap. Donc, comme je vous l'ai dit, au sein de cette Maison, siège une Commission des Droits et de l'Autonomie, qui est une commission composée à la fois de représentants des Associations, de l'Etat, des départements, des syndicats et des parents d'élèves, et cette Commission est chargée d'orienter les personnes handicapées vers tel ou tel type d' accueil ou d' accompagnement. Elle est également chargée de décider des prestations financières qui vont être attribuées aux personnes handicapées. (またこの県立障害者の家が障害者に対して、財政的な支援の振り分けの内容を決定しております。この県立障害者の家の中に、先ほど言いました権利と自立の委員会というのがございまして、その委員会のメンバーは国の代表、県の代表、また労組の代表、保護者の代表などなどからなっておりますけれども、その委員会がどのような受け入れのタイプがあるのか、またどのような世話の仕方があるのかなどを伝えると共に、財政的なお金をどのように振り分けていくかということも決めていきます。)

Vous avez également une autre composante de la Maison du Handicap, c'est l'équipe pluri-disciplinaire d'évaluation qui réunit des psychologues, des paramédicaux, assistants-sociaux, enseignants et médecins et dont l'objet est de préparer avec la famille ce que l'on appelle le projet personnalisé de scolarisation. Ce projet, en fait, définit les modalités de déroulement de la scolarité, en fait, il s'agit de déterminer quelles actions pédagogiques, de déterminer selon ses besoins l'enfant handicapé mental, en l' occurrence, pour trouver des solutions de scolarisation pour que la scolarité se passe bien. (それか

らもう一つこの県立障害者の家の中に、多分野評価チームというのがございます。多分野というのは例えば心理学者とか、医療関係者とか医療周辺関係者、それからソーシャルワーカーなど、教育者などが入っているがために他分野というわけですが、その人たちがそれぞれの障害者に一番合った教育の仕方、それからその教育に関してどのような行動を取っていけばいいのか、何がニーズとしてあるのかなどを決めていくパーソナルプロジェクト、PPS というのを打ち立てます。)

Ce projet détermine vraiment les actions concrètes, cas par cas, pour chaque enfant, à savoir quelles sont les actions psychologiques, pédagogiques, éducatives, sociales et médicales dont a besoin cet élève en particulier pour mener à bien sa scolarité. (その PPS の中で具体的に、その障害者の子供は学校に行くに当たって、学ぶものは何を学んだらいいのか、心理的なヘルプは何をすればいいのか、社会福祉的なヘルプは、医学的なヘルプはどういうように、非常にニーズを細かく特定して、どうやってサポートしていくかを決めていきます。)

Ce projet personnalisé est revu tous les ans. (毎年この PPS の中身は見直されます。)

Là, vous avez un petit schéma qui vous présente le parcours qui récapitule un peu ce que je viens de dire, pour vous expliquer le parcours au sein de la Maison de l'Handicap. Vous avez d'abord l'équipe pluri-disciplinaire dont je viens de vous parler qui va, avec les familles, élaborer le Projet personnalisé de scolarisation. C' est ce projet, donc, qui détermine les actions à mettre en oeuvre pour que la personne handicapée ait une scolarité adaptée. (これは今申し上げたことを絵にして表にしているわけですが、下から見ます。左側が多分野チーム、右が家族。両方一緒にして PPS という個々のプロジェクトを決めて、その中でどういう行動を取っていくのかなどを決めていきます。)

Ensuite, la Commission des droits et de l' autonomie, au vu de ce projet, décide de l' orientation de la personne handicapée vers telle ou telle solution de scolarisation. (それがこの委員会と権利と自立委員会に上げられまして、委員会がその中身を見て、どういう教育、実際に学校に入れるとか、オリエンテーションを決めます。)

Maintenant, je vais vous présenter les solutions proposées en matière de scolarisation des enfants handicapés mentaux en France. Donc, on peut dire qu'il y a trois types de solutions proposées. Il y a d'abord "la scolarisation en milieu ordinaire", il y a ensuite, ce que l' on appelle "les dispositifs adaptés", et pour finir, "la scolarisation en établissement spécial" ou médico-social. (では実際にどういう学校教育を受けていくのかという解決法が三つ種類がありますので、それをお話しします。Aは普通学級に入れるというものです。Bはフランス語では適用措置と言うものです。説明をします。三つ目は特殊な機関、学校に入れるというものです。)

Avant de vous présenter ces trois points, je vais vous présenter très. très rapidement deux dispositifs qui sont généraux, communs à ces trois types de scolarisations. ( この三つのタイプの学業の方法を一つずつ申し上げる前に、その三つに共通のことがありますので、それをご説明いたします。)

Le premier des ces dispositifs, c'est celui de "l'enseignant référent", c'est encore une innovation de la Loi de 2005. Il s'agit d'un enseignant qui exerce des fonctions de référent auprès de chacun des élèves handicapés du département, afin d'assurer sur l' ensemble du parcours de formation la permanence

des relations avec l'élève ou ses parents s'il est mineur. (これも新しく 2005 年 2 月の法律によって作られたものですが、担当教師を決めるということが一つあります。その県の障害者に対して、その障害者が学業を進めていく全体の流れの中で、フォローしていったまわっているのかどうかを見てあげる担当教師として、本人あるいは未成年の場合は本人の保護者と、いろいろと関係を持っていくという人です。)

Son rôle est donc d'accueillir et d'informer élèves et parents lors de l'inscription. C'est également d'assumer le lien avec l'équipe pluri-disciplinaire d'évaluation dans les Maisons de l'Handicap dont je vous ai parlé auparavant. C'est également de réunir l'équipe de suivi de la scolarisation dont je vais vous parler tout de suite après, c'est de contribuer à l'évaluation des besoins et l'élaboration du PPS, c'est enfin, pour finir, favoriser la continuité et la cohérence de la mise en oeuvre du PPS. (担当教師の役割といたしましては登録をするときに、両親に情報提供をする。それから助けてあげるという役割。それから県立障害者の家の多分野の評価チームとの関係を、ずっと保っていくという役割。それから学業のフォローをしていくチームというのがありますので、そのチームは後で説明しますが、そのチームに召集をかけて会議を開くというのが彼の役割。それから個人のプロジェクトのニーズの評価などをしていく。実際に PPS がちゃんと行われているかどうか、また一貫性を持っているかどうか、継続性を持っているかどうかを確認していくという役割がございます。)

Le deuxième dispositif commun aux trois types de scolarisations, c'est "l'équipe du suivi de la scolarisation" qui est en fait une équipe pluri-disciplinaire qui est chargée d'évaluer, de faire en sorte que le projet de scolarisation reste adaptée à la personne, donc, en fait, tous les ans, elle va réexaminer ce projet de scolarisation, elle va vérifier au cours de l'année que les moyens proposés sont bien adaptés à la personne. (もう一つ学業をフォローしていくチームというのが作られます。これが二つ目の共通の措置です。そのチームは多分野の人たちからなっているチームとして、年間を通してそのプロジェクトが本人に適用し続けているかどうか、本人のニーズに合っているかどうか、そして毎年検討すると申し上げましたが、このチームがその内容を検討していきます。)

Le premier type de scolarisation proposé est la scolarisation en milieu ordinaire. La scolarisation en milieu ordinaire, il n'y a pas grand chose à dire car elle est ordinaire, si ce n'est toutefois que les enfants qui sont intégrés dans les écoles ordinaires bénéficient d'emplois du temps parfois adaptés et qu'ils peuvent bénéficier d'une scolarisation à temps partiel. Ils peuvent être en école ordinaire à certains moments de la journée, ou plutôt de la semaine, et ensuite se retrouver, être dans un établissement spécialisé et avoir d'autres activités. (先ほどの三つの学業の種類について戻ってほしいんですが、まずその一つ目の普通教室に入れるというものです。普通教室に入れた場合に、一つは障害者に合わせて一部だけ適用した時間帯を普通教室ですが設けることができるということが、特別なものとして入れています。それから一部を普通教室という形で週の内のある程度で入れるということも可能です。ですので普通教室に週の内のある程度で入れて、その他の時間は特殊学校に入れるとかそういうことも可能です。)

Deux dispositifs principaux sont prévus pour aider la scolarisation des enfants en milieu ordinaire. Il

s'agit des AVS (Auxiliaire de la Vie Scolaire) et des SESSAD (Service d' Education Spéciale et de Soins à Domicile) (そういう中で普通教室に障害者を受け入れるときにスムーズに行くようにということで、学校生活補助員たちというのを一つは置いてあります。それからもう一つは SESSAD というシステムがありまして、それぞれにフォローシステムがあるということです。)

L' AVS (Auxiliaire de la Vie Scolaire) est un salarié du Ministère de l' Education Nationale qui constitue une aide humaine auprès d' un enfant handicapé à l' école. En fait, les AVS (Auxiliaires de la Vie Scolaire) interviennent à tous les stades de la scolarisation, aussi bien en temps scolaire que péri-scolaire. Ils interviennent de la maternelle au lycée. (まず AVS という学業生活補助員というものですけれども、これは国立教育省の職員です、公務員です。学校の生活を障害者が行っていく上で人的な援助をするということで、幼稚園から高校生まで学校内、それから学校周辺のことに关しまして、あらゆる段階で介入をしていきます。)

Ils apportent une assistance à l'enfant handicapé présent dans l'école de manière soit permanente soit ponctuelle. A ce jour, ils sont 6095 en France au mois d'octobre 2005 et il faut quand même reconnaître que leur formation est très inégale selon les départements où ils sont, puisque leur formation peut varier de 6 heures à 150 heures de formation pour qu' ils puissent bien mener leur action. (現在はその AVS という人たちは、2005 年 8 月の段階ですけれども 6095 人います。いつも学校で寄り添っているという場合もありますし、必要なときだけ介入するということもあります。県ごとにトレーニングをして AVS になるんですけれども、非常にトレーニングにばらつきがありまして、6 時間のトレーニングでなる人もあれば、150 時間トレーニングを受ける人もいまして、非常にレベルが県ごとに違うということです。)

Et maintenant, je vais passer aux SESSAD (Service d' Education Spéciale et de Soins à Domicile). Là je vais être un peu plus long et ça va être un peu moins bien lu et avant je vais vous faire un peu de lecture. (次は SESSAD というシステムについてご説明していきたいと思います。こちらは特殊教育サービスと家庭での居住地でのケアというのを縮めた言い方です。これについてはもう少し長く説明をしたいと思います。)

Le SESSAD (Service d'Education Spéciale et de Soins à Domicile) est un service destiné à apporter aux familles et aux enfants et aux équipes éducatives, à la fois des conseils et un accompagnement. Son action est orientée vers le soutien à l'intégration scolaire et l' acquisition de l' autonomie, l' approfondissement du diagnostic, le traitement et la rééducation qui en découlent, la préparation des orientations ultérieures. (SESSAD というのは家族や子供、それから教育チームに対してカウンセリングをする、いろいろなお世話をしていく制度です。特にその活動ですけれども学校で溶け込むための支援をする。それから自立を障害者が得るための支援をする。そしてまた診断をより正確なものにするための支援をする。そして再教育のための治療などを行っていく。またさまざまなその後のオリエンテーションの準備をしていくなどの活動をします。)

Cette spécificité c'est d'avoir une activité qui se déplace sur les différents lieux de vie de la personne handicapée. Les SESSAD sont composés d'équipes pluri-disciplinaires, donc des équipes à la fois médicale, des paramédicaux, des éducateurs spécialisés et dans certain nombre de cas, mais pas de

manière systématique, d'enseignants spécialisés. (この SESSAD の特徴としましては、さまざまな場所で介入をしていくということです。この SESSAD は現実にはチーム構成がなされていて、医療関係者と医療周辺関係者、そして特殊エデュケーターと言われる人。これは任意ですけれども教育機関の特殊教育の関係者が参加する場合があります。)

L'âge des enfants pris en charge varie selon les services, mais il est compris entre 0 et 20 ans, sachant que la classe la plus importante d'enfants pris en charge est celle de 6 à 10 ans qui constitue 42% des enfants pris en charge par les SESSAD. (この SESSAD というサービスですけれども、その対象となる子供の年齢はゼロから 20 歳までです。特に実際に利用している一番多い年齢というのは 6 歳から 10 歳で、それが 42%を占めます。)

Il faut bien savoir qu'en fait il n'est pas incompatible qu'il y ait dans une classe scolaire un AVS plus l'intervention d'un SESSAD. Tout simplement parce l'AVS, lui, va apporter une assistance à la pédagogie suivie par l'enseignant, alors que le SESSAD, lui, a plus une intervention sur le plan psychologique, psychomoteur, et relationnel de l'enfant. (例えば 1 人の身体障害者の子供に対して、AVS と SESSAD と両方のサービスを受けるということもあり得ます。例えば AVS, 補助員が教師に対してどのような教え方をすればいいのかというアドバイスをする。一方で SESSAD のほうは心理的、あるいは心理運動的なアドバイス、人間関係での面でのサポートをしていくというような形での役割分担が可能です。)

Donc ces deux systèmes sont complémentaires plutôt. En fait les SESSAD sont des services qui se développent fortement en France, puisque entre 1997 et 2001 le nombre de places des SESSAD a augmenté de 4800 soit une augmentation de 27%. Donc c'est vraiment un dispositif qui est en ce moment très reconnu et qui se développe de manière très importante. (ですので AVS, 補助員と SESSAD, サービスのほうは補完的であると言えます。SESSAD は 1997 年から 2001 年の間に非常に急拡大しまして、4800 サービス増えました。27%サービスが増えたということで、いま非常に大きくなっています。)

Si ces deux services se développent c'est parce que l'on leur reconnaît un atout principal qui est celui de leur grande souplesse de fonctionnement. En effet, ils s'adaptent aux besoins de l'enfant et de l'enseignant, suivent l'enfant lorsque celui-ci doit changer de lieu d'intégration. (SESSAD がこのように急拡大していったのは、やはり非常に柔軟性があるということが認められて、非常に利点があると認められたからです。子供のニーズと教育者のニーズと両方に応える。そして子供が生活の中でいろいろな場所に移動していくわけですが、そこをフォローしていきます。)

Quand je vous ai dit qu'il suit l'enfant lorsqu'il change de lieu d'intégration, ça veut dire que le SESSAD n'a pas vocation qu'à assister l'enfant en milieu ordinaire. Le SESSAD peut aussi intervenir dans un établissement médico-social. En fait, il se rend dans vraiment tous les lieux où l'enfant a besoin d'assistance pour aider ce dernier à acquérir davantage d'autonomie. (ですので普通の場所で介入をしていくだけではなくて、医療機関とか社会保障機関とか、あるいはいろいろな場面で子供がアシスタンス、補助を必要とするときに介入をしていくという、非常に柔軟なサービスです。)

Alors, le second type de scolarisation proposé est celui que l'on appelle "dispositif adapté". En fait, il s'

agit donc de classes spécialisées d' enfants handicapés, qui sont des classes intégrées dans des écoles ordinaires. (先ほどの学業のタイプとしまして三つあるという中の今度は二つ目ですけれども、適用学業ということです。)

Au fait, sous ce vocable de "dispositif adapté", on parle de 2 types de classes qui sont d' abord les CLIS (Classes d' Intégration Scolaire) et ensuite ce sont les UPI (Unités Pédagogiques d' Intégration). (これは普通学校の中の特殊教室のことを言います。この普通学校の中の特殊学級には二つのものがありまして、CLIS と UPI という二つのものがあります。)

Les CLIS (Classes d' Intégration Scolaire) permettent l' accueil dans une école primaire ordinaire d' un petit groupe d' enfants, au maximum 12 enfants présentant un même type de handicap. (CLIS ですけれども、こちらは小学校に障害者を受け入れる場合でして、グループはマキシマムで 12 人と決められております。同じタイプの障害を持つ子のグループということになっています。)

En fait, il existe 4 types de CLIS, et celle qui concerne l'handicap mental est le CLIS #1. En fait, les CLIS accueillent les enfants dont le handicap ne leur permet pas d'envisager leur intégration dans le milieu ordinaire, mais qui peuvent bénéficier dans le cadre d' une école d' une forme adaptée et ajustée d' intégration. (CLIS といった場合に四つのタイプの特殊教室がありまして、知的障害者の特殊学級は CLIS 1 です。普通の学級に入れないけれども、ある程度調整適用ができるという子供たちを受け入れます。)

En fait les enseignants spécialisés qui sont dans les CLIS sont des professeurs des écoles qui font partie de l' Education Nationale. (学業を教える教師は国の教師です。)

Ce qui est important de dire est que ces enfants qui sont dans les CLIS participent à certaines activités avec des enfants ordinaires des autres classes de l'école, donc il peut s'agir des activités sportives, de loisir, de culture, de toutes les activités qui sont appropriées pour qu' il y ait des périodes d' échange entre les enfants handicapés mentaux et les enfants dits "ordinaires". (この CLIS の特殊教室に通っている子供は、普通教室の子供と交流できる場面においては交流させることになっております。例えば運動を一緒にするとか、あるいは授業の間のお休みのとき一緒にいるとか、文化的な授業は一緒にするとか、なるべく一般の生徒たちとの交流を図るということをうたっております。)

Enfin, ce qui est important de dire, c'est que les enfants qui sont dans les CLIS comme ceux des UPI dont on va parler ensuite, ont le même programme scolaire que les enfants qui sont dans les classes ordinaires. Seulement les pédagogies, les rythmes sont adaptés au handicap mental. (もう一つ重要な点は、この CLIS の子供たちも、それから UPI の子供たちもそうですけれども、学校のカリキュラムは普通学級の子と同じです。ただ教え方とその進めるリズムが違うというだけです。)

Donc, après le CLIS qui correspond à l'éducation en milieu primaire pour les enfants de 6 à 11 ans, on va passer donc aux UPI (Unités Pédagogiques d'Intégration) qui concernent l'intégration scolaire au collège, donc plus pour les enfants de 11 à 16 ans. (CLIS のほうが小学校までですので 6 歳から 11 歳。) Alors les UPI (Unités Pédagogiques d' Intégration) donc accueillent des enfants qui sont intégrés dans un collège et ne peuvent pas être intégrés d' une manière individuelle dans une école ordinaire. (UPI

のほうは中学校になりますので 11 歳から 16 歳になります。UPI は中学校の中での特殊学級でして、普通学級に行けない子供を受け入れます。)

En fait, ces UPI fonctionnent comme les CLIS c'est à dire qu'elles sont intégrées dans une école ordinaire. En fait, c'est vraiment la continuité de la CLIS, c'est la Classe d'Intégration Scolaire à l'UPI. La spécificité c'est que les groupes d'élèves qui sont en UPI sont plus restreints puisque la loi impose un maximum de 10 élèves. (ですから普通の学校で特殊学級が小学校のときは CLIS, そしてその子たちが今度は中学に行くと特殊教育で続けた場合 UPI に行くわけです。普通の学校の中にある。ただ中学校からは法律でさらに人数を限定してまして 10 人をマキシマムとしています。)

Les trois points pour terminer avec les UPI. D'abord, la capacité requise pour pouvoir entrer en UPI, c'est pouvoir assumer les contraintes et les exigences minimales que comporte et implique la vie au collège, et disposer d'une capacité de communication compatible avec les enseignements scolaires et les situations de vie et d'éducation collective. (その UPI に受け入れられるための条件といたしましては、中学校の生活に必要な最低限の要求される制約などを受け入れられること。それから学校の教育を受けるだけのコミュニケーション能力があること。そして中段の教育を受けることが可能なことということです。)

Comme pour le CLIS, les orientations en UPI sont déterminées par la Commission des Droits et de l'Autonomie et comme pour le CLIS, un AVS peut intervenir au sein de l'UPI. (CLIS と UPI はどちらも権利と自立委員会が、そこに行かせるかどうかを決定いたします。また UPI も CLIS と同じように AVS などをお願いする、補助員をお願いするということも可能です。)

Nous allons passer au troisième type de scolarisation qui est la scolarisation en établissement spécial ou médico-social. (三つ目の学校のあり方ですけれども、これは特殊施設、医療教育施設での受け入れです。)

Il s'agit donc des instituts médico-éducatifs ou IME qui accueillent des enfants et adolescents atteints d'une déficience à prédominance intellectuelle, quel que soit le degré de leur déficience. Ils reçoivent en général dans ces IME des enfants âgés de 3 à 20 ans. (IME という医療教育施設で受け入れをいたしまして、子供から思春期の子供まで、知的障害者が多いんですけれどもそれ以外の子もいます。その障害のレベルにかかわらず受け入れが可能です。3 歳から 20 歳までを受け入れます。)

En fait, ces IME sont composés à la fois d'instituts médico-pédagogiques ou IMP qui reçoivent des enfants de 3 à 14 ans et leur assurent un enseignement général et pratique. Ensuite, pour les enfants un peu plus âgés, donc de 14 à 16-20 ans, on a des instituts médico-professionnels ou IMPRO qui eux dispensent une initiation professionnelle. L'ensemble de ces établissements peuvent fonctionner en internat, semi-internat ou en externat. (この医療教育施設、IME の内訳としまして、医療学術施設 IMP というのがありまして、3 歳から 16 歳までの子供を受け入れておりまして一般教育などを行っております。その後に IMPRO という医療職業施設というのに行きまして、そこで職業に就くための勉強といいますか訓練をいたします。こちらは寄宿舎、半寄宿、それから通いと三つの方法で行くことができます。)

Les frais de soins, d'hébergement, et de transport sont pris en charge par la Sécurité Sociale, alors que

les frais de scolarité sont pris en charge par le Ministère de l' Education Nationale. (治療費, また宿泊費, 移動費は社会保障基金から出ます。学校の費用は国の教育予算から出ます。)

Il faut savoir que le fait d' être dans un IMP n' exclut pas le fait d' être également dans une école ordinaire, puisque l' on peut être à la fois dans un institut médico-social et être également être intégré en école ordinaire de manière partielle. (子供によりましては一般教室に半分通って, そしてこの IMP と言われる医療教育施設に半分通うという子もいます。それも可能ということです。)

Et si l'on regarde les chiffres, 75% des enfants intégrés dans les établissements sont uniquement scolarisés au sein de leurs établissements, par contre 87% des enfants accueillis en SESSAD sont exclusivement scolarisés dans des établissements de l'Education Nationale, donc ça veut dire qu' ils sont à 87% des enfants en SESSAD scolarisés en CLIS, en UPI ou en classe ordinaire. (普通どこかの施設, あるいは学校に受け入れられている子供の 75%は, 一つのその学校, あるいは施設だけで学業をしております。それから SESSAD の対象になっている子供に関しましては, 87%が国の公立学校の特殊教室, CLIS か UPI か, あるいは一般教室に通っております。)

Je vais vous donner quelques chiffres si on a le temps. (時間がありましたら数字を少し挙げていきたいと思うんですけども。)

Je vais directement d'abord faire un constat rapide d'ordre général qu'on peut faire sur le système français. En fait, en France l'obligation de scolarisation repose sur des formes variées, toute une palette de solutions proposées, puisque je vous ai parlé de scolarisation en milieu ordinaire, scolarisation adaptée dans les CLIS et UPI, et de la scolarité en milieu médico-social, avec autour de ça, tout un tas de services comme le SESSAD, d'autres services dont je n'ai pas parlé qui interviennent d'une manière un peu moins importante sans doute dans l' éducation somme sont les CAMS, tout un tas d' autres dispositifs périphériques qui assurent un éventail assez large de solutions proposées. (まとめといたしましては, フランスでは学校に行く義務がある中で, さまざまな学業を学ぶための形態がある。一般教育もあれば特殊学級, それから特殊施設, そしてまたサービスも SESSAD。そして話には出ませんでしたけれども? カムスというそれほど使われていないサービスというのがありますので, そういう意味ではいろいろは方法で学業を学ぶことができる体制になっている。)

On assiste de plus en plus à une flexibilité du système, puisqu'un enfant peut être scolarisé d'abord en milieu ordinaire, puis ensuite aller en médico-social, il peut être intégré de manière partielle en milieu ordinaire, et en même temps en milieu apécialisé. Donc il existe de plus en plus de passerelles et de souplesse entre les différentes solutions proposées. (またシステムもどんどん柔軟になっているのが特徴でして, そしてまたいろいろな機関や学校の間で橋渡しがされていて, 二つや三つというような機関を同時に利用するということができる。また行ったり来たりすることもできるということです。)

En fait, les transformations actuelles qui se caractérisent par le développement des services, sans doute, un peu, au détriment des établissements spécialisés, offrent déjà de meilleures opportunités de passerelles entre éducation ordinaire et éducation spéciale, et pour cela les SESSAD sont certainement un outil très intéressant pour permettre aux enfants handicapés mentaux de suivre une scolarité

adaptée, quel que soit le lieu où se déroule cette scolarité. (それからサービスがどんどん拡大していった、そのために特殊な機関というのがだんだん減ってきていると思いますけれども、その SESSAD などのサービスが拡大しているおかげで、普通教育を受けやすくなってきている。ですので知的障害者にとっては、より普通教育の機関で適用できるような体制が整ってきていると言えるかと思います。)

Donc en fait, pour terminer, je dirai que cette diversité de solutions permet des processus dynamiques de passage d'une structure à l'autre en fonction de l'évolution du handicap de l'enfant. Ce qui est important est qu'en multipliant les solutions, les types de dispositifs proposés, on permet une adaptation vraiment au plus près possible, la plus proche possible d'un suivi adapté à la personne handicapée, en suivant l'évolution de son handicap, puisqu'on sait que le handicap mental est quelque chose d'évolutif. (知的障害の場合は、時期によって非常に障害の度合いなどに変化があるのが特徴です。で、このような多様なソリューションを持つことによりまして、その時期、その時期に対応した教育や世話ができるということで、障害者にとっては非常に動的なプロセスになっていると言えるかと思われます。)

Enfin, pour finir, un seul chiffre pour dire que seulement 7% finalement des enfants handicapés en 2004 en France étaient scolarisés en milieu ordinaire. (ただ最後に数字として 2004 年ですけれども、障害者全体で普通学級に行った子は 7% だけでした。)

Je vous remercie. (ありがとうございました。)

発表終了――

フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービス  
S E S S A D の成立と評価  
- わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与 -

[17402049]平成 17 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））

---

平成 19 年 3 月 発行  
研究代表者： 棟 方 哲 弥  
発行：独立行政法人国立特殊教育総合研究所

〒239-0841 神奈川県横須賀市野比五丁目 1 番 1 号  
電話 046-848-4121 FAX 046-839-6909

---